

# キャリア教育理解推進のための校内研修資料集

## キャリア教育推進ショートプログラム

### 研修資料集の内容

- キャリア教育推進ショートプログラムを使った校内研修の進め方と校内研修の例
- 研修シート及び手引き・解説

#### A キャリア教育の概要

- A-1 キャリア教育とは何かについて
- A-2 キャリア教育を通して育てたい4能力について
- A-3 キャリア教育で育成する4能力の育成目標について
- A-4 家庭・地域・学校の役割と連携の在り方について

#### B キャリア教育の実践

計 画	B-1 キャリア教育の指導計画作成の視点と手順について
	B-2 キャリア教育の全体計画作成の仕方について ～A小学校の例～
	B-3 キャリア教育の学年別年間指導計画作成の仕方について ～A小学校第4学年の例～
実 践	B-4 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～教科（国語科）の例～
	B-5 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～道徳の例～
	B-6 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～総合的な学習の時間の例～
	B-7 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～特別活動（ホームルーム活動）の例～

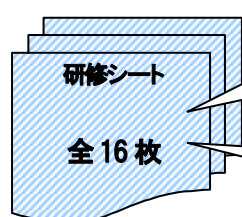
#### C 異校種・家庭・地域との連携

- C-1 異校種との連携の在り方について
- C-2 家庭・保護者との連携活動について
- C-3 地域との連携の仕方について

#### D 活動の記録と評価

- D-1 自己を見つめる力を育てるための指導の在り方について ～活動記録を用いて～
- D-2 活動記録の活用の仕方について

- 今年度のキャリア教育の実施状況に関するチェックシート
- 参考・引用資料



1枚につき1項目で、10分程度で研修が行えます。

このシートを印刷して研修で活用してください。



研修担当者の資料として利用してください。

必要とする項目やその組み合わせで校内研修が行えます。

# キャリア教育推進ショートプログラムを使った校内研修の進め方と校内研修の例

全校種で共通して活用できる事例を次のとおり示した。実際に校内研修を行う場合は、以下のようにA-1～D-2の研修シートの中から研修の目的に合わせて必要な研修シートを選択し、それらを組み合わせて実施する。

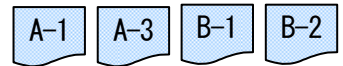
## キャリア教育全体について研修する場合

- ・目的 キャリア教育の全体を理解する。
- ・研修担当 教務主任または研究主任
- ・時間 1回10分程度
- ・回数 16回
- ・時期 職員会議後、年間を通して
- ・使用するシート 全16枚



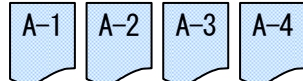
## キャリア教育の全体計画の作成の仕方を研修する場合

- ・目的 キャリア教育の全体計画作成の方法・手順等を理解する。
- ・研修担当 教務主任
- ・時間 40分程度
- ・回数 1回
- ・時期 4月
- ・使用するシート 4枚



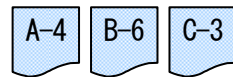
## キャリア教育の考え方を研修する場合

- ・目的 望ましい勤労観・職業観の育成を学校全体で図るためにその考え方を共通理解する。
- ・研修担当 教務主任または研究主任
- ・時間 1回10分程度
- ・回数 4回
- ・時期 職員会議後
- ・使用するシート 4枚



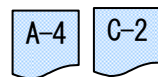
## 職場体験の進め方を研修する場合

- ・目的 職場体験の進め方を理解する。
- ・研修担当 進路指導主任
- ・時間 30分程度
- ・回数 1回
- ・時期 4月
- ・使用するシート 3枚



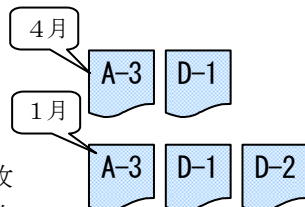
## 保護者にキャリア教育への協力を求める場合

- ・目的 保護者会において、保護者に伝える内容を検討する。
- ・研修担当 学年主任
- ・時間 20分程度
- ・回数 1回
- ・時期 保護者会の前
- ・使用するシート 2枚



## 児童・生徒の自己理解を深める場合

- ・目的 自己を見つめ、自己理解を深めるための指導と支援の在り方を理解する。
- ・研修担当 学年主任
- ・時間 1回20分程度
- ・回数 2回
- ・時期 4月と1月
- ・使用するシート 4月2枚、1月3枚



## 研修担当者が企画・運営する際の留意事項

研修の目的を考える

学校の実態を踏まえて、目的を設定する。

目的に合った内容を考え、計画する

目的に応じて、必要な研修シートを選択し、実施時期や方法等を企画・立案する。

研修の内容を理解する

必要な手引き・解説の解説を読み、研修の実施内容を確認する。

研修の進め方を考える

手引き・解説の進め方を読み、研修の進行を確認する。

研修会の準備

利用する研修シート等を準備する。

実施

研修内容や方法、実施時期などを検証する。

評価

## A-1 キャリア教育とは何かについて

【研修のねらい】 キャリア教育とはどのような教育であるかを理解する。

### ☆ キャリア教育とは

○「児童・生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえ、端的には、「児童・生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育」とする。

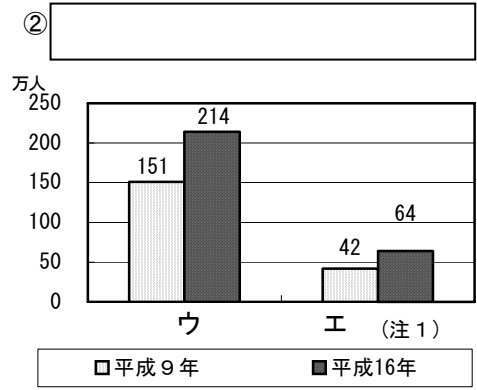
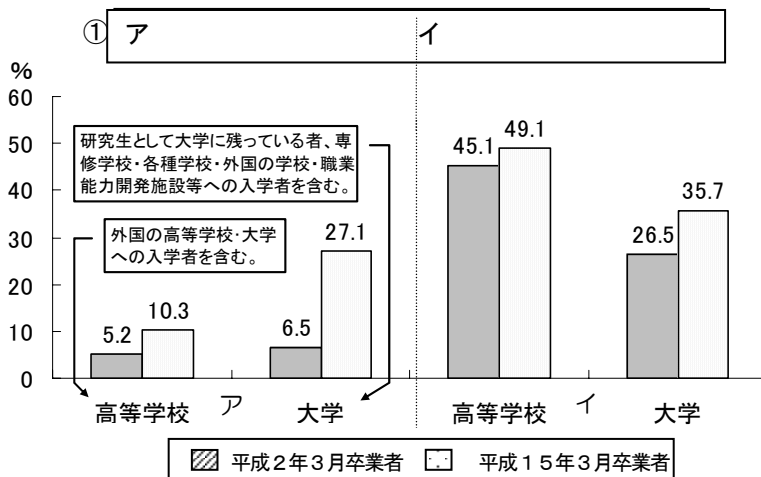
○望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性や適性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる教育である。

○児童・生徒一人一人の進路選択に関する資質や能力の発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリア（生涯にわたって遂行する立場や役割）を形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育である。

（キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省）

（望ましい勤労観・職業観の育成 平成16年3月 東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課）

### ☆ キャリア教育が求められる背景 「学校から社会への移行をめぐる現状」

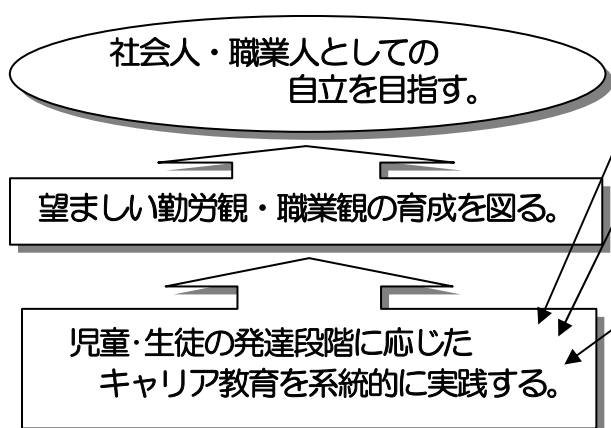


（キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省）

（新規学校卒業生の就職離職状況調査 平成17年 厚生労働省より）

（注1：「E」とは15歳から34歳の家事も通学もしていない者）  
（平成18年版労働経済の分析 平成18年 厚生労働省より）

### ☆ キャリア教育のねらい



### ☆ キャリア教育の意義

学校における教育活動の見直しや授業の工夫、改善に結び付くこと

従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性を示すもの

各領域の関連する諸活動を体系化し計画的、組織的に実施できるよう、各学校が教育課程編成の在り方を見直していくこと

キャリアが児童・生徒の発達段階や発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、児童・生徒の全人的な成長・発達を促す視点に立った取組を積極的に進めること

（キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省）

## A-1 キャリア教育とは何かについて

### 1 研修の進め方

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容等を説明し、研修シートA-1を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておく。
1	②キャリア教育の内容や求められる背景の理解	②キャリア教育について、文部科学省及び東京都教育委員会が示している「キャリア教育とは」の内容を説明し、キャリア教育の理解を深めるため、次の内容を四角の空欄に記入してもらう。	②【共通理解を図る内容】 ・キャリア教育では、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力の4能力を育成することが大切であること。この内容は、次回以降、具体的に研修することを伝える。
2	・四角の空欄に記入する。		
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     キャリア教育とは、児童・生徒一人一人に望ましい勤労観・職業観をはぐくむために、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力を身に付けさせる教育活動である。                 </div>		③【グラフから読みとれるキャリア教育が求められる背景】 ・無業者や早期離職者、フリーターの増加などから職業人としての基本的な資質や能力の低下が指摘されていること ・原因として、次のことが考えられること ア 経済情勢や産業・経済及び雇用の構造の変化 イ 働くことへの意欲・関心の低下 ウ 若者の意識や資質の変化 等
4	③キャリア教育が求められる背景等の理解	③「①と②のグラフは、何を表しているのか」と問い掛け、考えてもらう。	④【共通理解を図る内容】 〈ねらい〉社会人・職業人として自立することを目指し、小学校段階から勤労観・職業観を育成する。 〈意義としておさえておきたい内容〉 ・個に応じた支援等、従来の教育の在り方を見直す。 ・発達段階に応じて、全人的な成長・発達を促す。 ・各領域の関連を図り、計画的・組織的に実施する。
5	・グラフから何を表しているかを読み取る。	【グラフの表すもの】 ①のグラフ：ア 卒業後、進学も就職もしていない者の割合 イ 卒業後3年後の離職率 ②のグラフ：フリーター数・ニート数の推移 ウ フリーター エ ニート	
6			
7	④キャリア教育のねらいや意義の理解	④研修のまとめとして、以下を説明して、共通理解を図る。 ・キャリア教育のねらいは、望ましい勤労観・職業観を育成し、将来、社会人としての自立を促すこと ・意義は、教育活動全体の見直しや授業の工夫・改善に結び付くこと	⑤【想定質問及び回答例】 Q1 進路指導との違いは何か。 A1 社会人・職業人として必要な能力・態度を育成することである。 Q2 授業の工夫・改善とはどのようなことか。 A2 キャリア教育が目指す4能力の育成という視点からは、生きる力や確かな学力と関連があることから、授業改善に結び付くと考えられる。
8			
9	⑤質疑応答		
10	⑥終了	⑤不明な点や質問を受ける。	

### 2 解説Q&A

Q1 「キャリア」、「勤労観」、「職業観」という言葉はどのような意味か。

- A ○「キャリア」とは、個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積である。(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省より)
- 「勤労観」とは、勤労に対する価値的な理解・認識である。職業としての仕事や勤めだけでなく、ボランティア活動、家事や手伝い、その他の役割の遂行などを含む、働くことそのものに対する個人の見方や考え方、価値観であり、個人が働くこととどのように向き合っていくかという姿勢や構えを規定する基準となるものである。  
(児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について〔調査研究報告書〕平成14年11月 国立教育政策研究所生徒指導センターより)
- 「職業観」とは、人それぞれの職業に対する価値的な理解であり、人が生きていく上での職業の果たす意義や役割についての認識である。「職業観」は、人が職業を通じて職業を通じての生き方を選択するに当たっての基準となり、また、選択した職業によりよく適応するための基盤ともなるべきものである。(文部省進路指導資料 平成4年 文部省より)

Q2 望ましい「勤労観・職業観」とはどのようなものか。

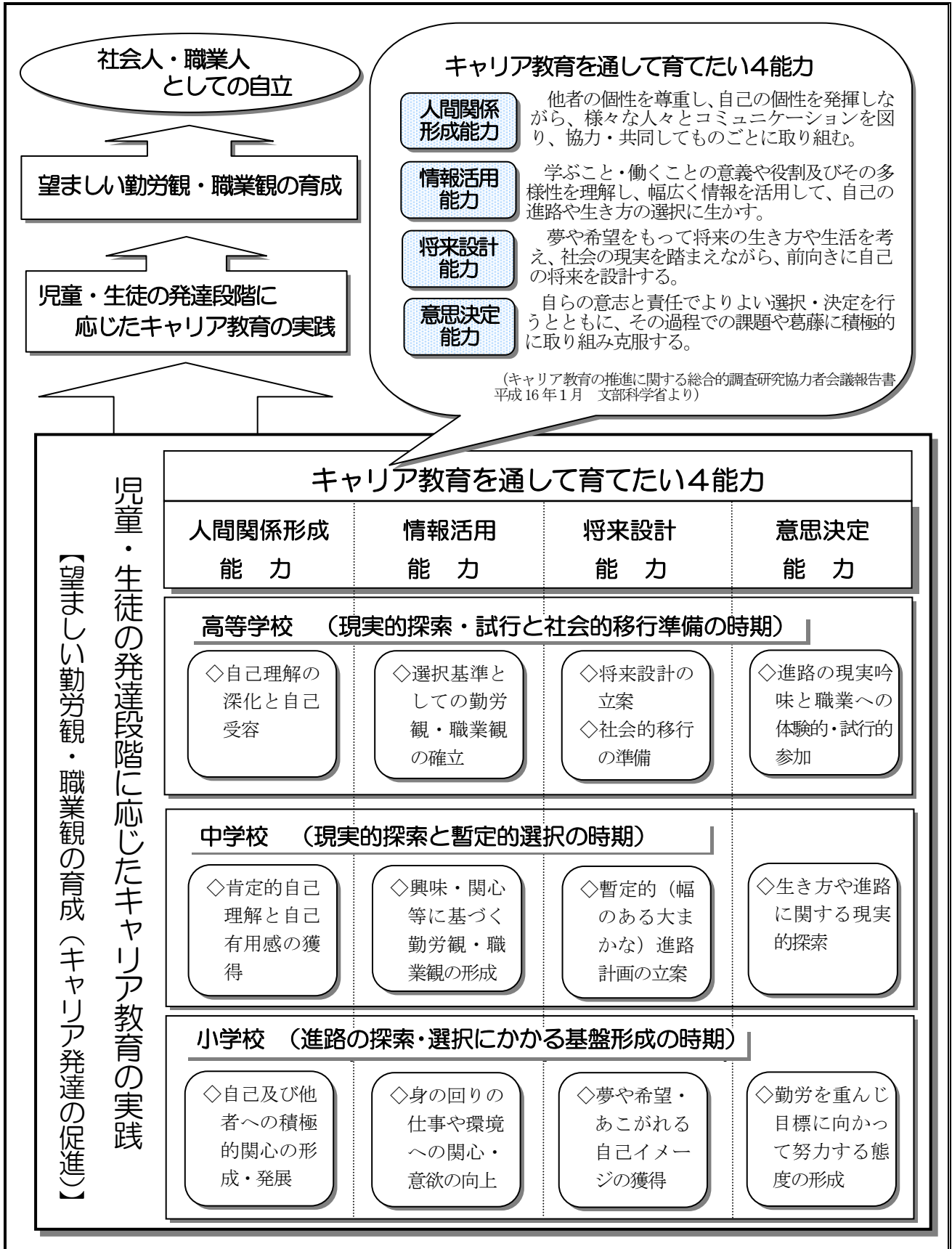
- A ○理解・認識面 ①職業には貴賤がないこと  
②職務遂行には規範の遵守や責任が伴うこと  
③どのような職業であれ、職業には生計を維持するだけでなく、それを通して自己の能力・適性を発揮し、社会の一員としての役割を果たすという義務があること
- 情意・態度面 ①一人一人が自己及びその個性をかけがえのない価値あるものであるとする自覚  
②自己と働くこと及びその関係についての総合的な検討を通じた職業・勤労に対する自分なりの構え  
③将来の夢や希望の実現を目指して取り組もうとする意欲的な態度  
(児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について〔調査研究報告書〕平成14年11月 国立教育政策研究所生徒指導センターより)

Q3 キャリア教育を推進するためにどのような条件整備が必要か。

- A ○教員の資質向上を図り、専門的能力を有する教員を養成する。  
○保護者との連携を推進する。  
○学校外の教育資源を活用するためのシステムづくりをする。  
○地域社会・関係機関・企業等との連携を進め、社会全体で取り組むキャリア教育への理解を促進する。

## A-2 キャリア教育を通して育てたい4能力について

【研修のねらい】 キャリア教育を通して育てたい4能力とその能力を育てるための支援の在り方を理解する。



## A-2 キャリア教育を通して育てたい4能力について

### 1 研修の進め方

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0—1—2—3—4—5—6—7—8—9—10—	①研修のねらい等の理解 ②キャリア教育で育てたい4能力の理解  ③各校種における4能力の育成内容の理解  ④質疑応答 ⑤終了	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートA-2を受講者に配布する。 ②キャリア教育を通して育てたい人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力の4能力について、それぞれの内容を説明する。  ③小・中・高等学校における発達段階に応じた4能力の育成内容について、次の時期を踏まえ、各校種における4能力の発達の程度を具体的に研修シートに基づき説明する。 小：進路の探索・選択の基盤形成 中：進路の現実的探索と暫定的選択 高：進路の現実的探索・試行と社会的移行の準備  ④不明な点や質問を受ける。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておく。  ②【共通理解を図る内容】 ・キャリア教育とは、4能力の育成を図る教育活動であること ・4能力の育成は、学校の教育活動全体を通じて行うものであること ・4能力の育成については、次回以降の研修で扱うこと ・4能力は、キャリア教育が目指す「社会人・職業人としての自立」を図るための能力や態度に結び付くものであること  ③【共通理解を図る内容】 ・児童・生徒への指導や援助を行う際、心身の発達課題や発達段階に応じた支援が重要なように、望ましい勤労観・職業観を形成するために、各校種において、4能力を形成できるよう系統的・継続的にキャリア教育を行うことが重要であること  ④【想定質問及び回答例】 Q1 4能力の育成がなぜ大切なのか。 A1 4能力の発達には社会人・職業人として必要な能力・態度につながる。 Q2 キャリア発達とはどういう意味か。 A2 社会人・職業人として必要な能力・態度の発達のことである。

### 2 解説Q&A

Q1 キャリア発達への支援ということを児童・生徒の発達段階と関連させるとはどのようなことか。

A キャリア教育を進めていく上で重要なことは、キャリアが児童・生徒の発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、児童・生徒の全人的な成長・発達を支援するということである。

人間の成長・発達の過程には、いくつかの段階（節目）と各段階で取り組まなければならない発達課題がある。これをキャリアの発達という視点から見れば、学校段階別に研修シートA-2の図のように考えられる。こうした発達には、自己理解、進路への関心・意欲、勤労観・職業観、職業や進路先についての知識や情報、進路選択や意思決定能力、職業生活にかかる習慣や行動様式及び必要な技術・技能などの様々な側面に関するものがある。

キャリア教育は、学校の実情を踏まえるとともに、一人一人のキャリアが多様な側面をもちながら段階を追って発達していくことを認識し、児童・生徒がそれぞれの発達段階に応じ、自己と働くことを適切に関係付け、各発達段階における発達課題を達成できるよう、意図的、継続的に取り組むことにその特質がある。

Q2 なぜ小学校からキャリア教育が必要なのか。

A 小学校段階は進路の探索・選択にかかわる基盤を形成する大切な時期である。小学校の段階から、発達段階に応じて、社会の仕組みや自己と他者あるいは社会の関係を理解できるようにするとともに、そうした理解の上に立って、自分の力で自分の人生をつくるのだという意識をもたせたり、仕事に対する責任感や強い意志を涵養したりするなど、将来の精神的・経済的自立を促したりするための取り組みを積極的に進めていく必要がある。

(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省より)

### A-3 キャリア教育で育成する4能力の育成目標について

【研修のねらい】 4能力の育成目標の例を参考に、自校の児童・生徒に対する4能力の育成目標を検討する。

#### ＜4能力の育成目標の例＞

領域	人間関係形成能力			情報活用能力		将来設計能力		意思決定能力		
領域説明	他者の個性を尊重し、自らの個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。			学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。		夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。		自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。		
能力 校種	自己理解能力	他者自他の理解能力	コミュニケーション能力	情報収集・探索能力	職業理解能力	役割把握・認識能力	計画実行能力	選択能力	課題解決能力	
高等学校	自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。	異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。	リーダーとフォロアシップを發揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。	卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。	多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。	学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。	職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路を立案する。また、必要に応じて計画の見直し再検討を行い、その実現に向けて取り組む。	選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観をもつ。	進路希望の実現や自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題を設定し、その解決に取り組む。	
中学校	自分のよさや個性が分かり、他者のよさや感情を理解し、尊重する。	他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。	リーダーとフォロアの立場を理解し、チームを組む互いに支え合いながら仕事をする。	生き方や進路に関する情報を、多様なメディアを通して調査・収集・整理・活用する。	体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。	様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。	将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。また、自分の将来を暫定的に計画する。	自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。	よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見だし、主体的に解決していこうとする。	
小学校	高学年	自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを發揮する。	思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。	異年齢集団の活動にすすんで参加し、役割と責任を果たそうとする。	気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。	学んだり体験したりしたこと、生活や職業との関連を考える。	社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。	憧れとする職業をもち、今しなければならぬことを考える。	係活動などで、自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。	将来の夢や希望をもち、実現を目指して努力しようとする。
	中学年	自分のよいところを見付ける。	友達のよいところを認め、励まし合う。	友達と協力して、学習や活動に取り組む。	分からないことを、本やインターネットなどで調べたり、質問したりする。	いろいろな職業や生き方があることが分かる。	互いの役割や役割分担の必要性が分かる。	計画づくりの必要性に気づき、作業の手順が分かる。	自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、すすんで取り組む。	自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。
	低学年	自分の好きなこと嫌いなことをはっきり言う。	友達と仲良く遊び、助け合う。	あいさつや返事をする。	分からないことを聞ける。	身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心をもつ。	家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。	作業の準備や片付けをする。決められた時間やきまりを守ろうとする。	自分の好きなもの、大切なものをもつ。	自分のことは自分で行おうとする。

## A-3 キャリア教育で育成する4能力の育成目標について

### 1 研修の進め方

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートA-3を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておく。
1	②4能力の育成目標の例の理解	②4能力の育成目標について、前回の復習を兼ね、4能力の領域の内容を説明するとともに、4能力を細分化すると、それぞれ2～3の能力に分けられることを説明する。	②【共通理解を図る内容】 ・4能力を細分化すると、人間関係形成能力は、3能力に、情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力は、それぞれ2能力に細分化できること
2	③各校種における各能力の具体的な育成目標の例の理解	③各校種における4能力を細分化した育成目標例を説明する。その際、他校種の育成目標例を踏まえ、各校種・発達段階ごとの関連性に気付かせ、キャリア教育の系統性の重要性も説明する。	③【共通理解を図る内容】 ・4能力を細分化した各能力の育成目標例は、キャリア教育を通して身に付けさせたい到達目標の例であること ・育成目標例は、望ましい勤労観・職業観を身に付けるために必要な能力・態度に結び付くものであること
3	④各学校における育成目標についてのグループでの話し合い	④グループでの話し合いを行うにあたり、次の内容を伝える。 ア 目的は、自校の児童・生徒に対するキャリア教育の視点に立った指導の重点(育成目標)を検討することである。 イ 方法は、自校の児童・生徒の実態を踏まえ、各校種・各能力の育成目標例を参考に、キャリア教育で育成したい能力について2～4人の少人数で話し合う。	④【話し合いを行う際の留意点】 ・自校の実態に応じて、育成目標例に照らして、指導の重点とする能力を検討する。 ・指導の重点とする能力が決まったグループは、より具体的な育成目標を立案する。 ・発表より、話し合うことに重点をおく。
4			
5			
6			
7			
8			
9	⑤検討内容の発表	⑤時間に応じて、数グループから発表してもらう。	⑤発表は、研修の時間に合わせて行う。また、時間があれば質疑応答を行う。 【想定質問及び回答例】
10	⑥終了		Q1 4能力の育成目標をどうとらえたらよいか。 A1 4能力の育成目標例は、児童・生徒に系統的なキャリア教育を行うための指針として、とらえることができる。 Q2 キャリア教育の評価はどうしたらよいか。 A2 発達段階に応じて4能力を適切に育成するためにも目標として示した内容が、児童・生徒にどの程度身に付いているか等の達成状況から評価することができる。

### 2 解説Q&A

- Q1 キャリア発達を支援するとはどのようにすることなのか。また、どのような力を育てていくのか。
- A ○キャリア発達の支援とは、勤労観・職業観の形成に関連する人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力の4能力をそれぞれの発達段階に応じて育成するように指導することである。
- 指導する際には、4能力について発達段階に応じて児童・生徒が身に付けることを期待される能力・態度を具体的に明確にした育成目標をたて、それをキャリア発達の見取り図とするとともに、児童・生徒にどのような能力・態度が身に付いているかを見るための基準とする。(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省より)
- 小学校・中学校・高等学校のそれぞれの発達段階に応じて、12年間を通して継続的に指導することにより、望ましいキャリア発達が可能となる。
- Q2 4能力の育成目標を学年ごとに立てるにはどのような手順で作成したらよいか。
- A ○研修シートA-3の表を参考にして、自校の児童・生徒の実態に応じて各学年の育成目標を検討し、一覧表にまとめる。
- Q3 作成した学年ごとの育成目標は、どのように活用することができるか。
- A ○一人一人の児童・生徒が、各能力において、現在どの段階にあるのかを把握し、一人一人に必要な指導・援助を考えるとときの参考にする。
- 学校全体で組織的・計画的にキャリア教育を進め、各教科等の児童・生徒の指導目標を立てるときの参考にする。
- この一覧表を、児童・生徒のキャリア発達の目標として、児童・生徒が自己評価をするときに活用する。



## A-4 家庭・地域・学校の役割と連携の在り方について

【研修のねらい】 キャリア教育における家庭・地域・学校それぞれの役割を理解し、連携の在り方を検討する。

### 社会人・職業人としての自立

#### 家庭や保護者の役割

- 家庭は、子どもたちの成長・発達を支える重要な場
- 様々な職業生活の実際や仕事には苦勞もあるが大きなやりがいもあると感じ取らせること
- キャリア教育の必要性を理解し、学校教育に参加すること 等

#### 企業・関係機関や地域社会の役割

- 企業から学校への従業員の派遣
- 職場体験やインターンシップ等の意義の理解と受け入れ
- 学校との意見交換会等の実施や緊密な情報交換
- 大学等におけるオープンキャンパス等の実施 等

望ましい勤労観・  
職業観の育成

#### 児童・生徒

様々な体験や学習を通して、自己評価を繰り返して、自己理解を深める。

指導  
援助  
協力

指導  
援助  
協力

指導・援助

#### 学校の主な役割

小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校

- 児童・生徒へ : ①小学校・中学校・高等学校で系統的なキャリア教育を行う。  
②キャリア教育を通して4能力（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）を育てる。  
③児童・生徒に自己の可能性や適性について自覚を深めさせる。
- 家庭・保護者へ : ①キャリア教育の意義や取り組み内容を保護者に発信する。  
②教育活動への協力等を依頼する。
- 企業・関係機関 : ①キャリア教育の推進にかかわる協力等を依頼する。  
・地域社会へ ②学校で行う職場体験等の意義の周知に努める。

協力依頼・要請

協力依頼・要請

〔連携の内容〕

〔連携の内容〕

**A-4 家庭・地域・学校の役割と連携の在り方について**

**1 研修の進め方**

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0—	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートA-4を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を理解するとともに、自校の連携状況等を把握しておく。
1—	②家庭・地域・学校の役割についての理解	②キャリア教育を推進するための家庭や地域、学校の役割について概略を説明するとともに、受講者が連携活動に思考を広げられるように説明する。	②家庭や地域の役割を踏まえ、自校のキャリア教育を推進するために連携・協力できる場や機会をあらかじめ想定し、その内容を例として伝え、グループでの話し合いを円滑に行えるようにする。
2—		＜家庭の役割＞ ＜地域の役割＞ ＜学校の役割＞	・家庭との連携：保護者による職業体験講和、学校行事への参加等
3—		研修シートの四角 囲みの説明等	・地域との連携：職場訪問、企業による出前授業の実施等(その他の例は解説Q&A参照)
4—	③学校と家庭や地域との連携活動についてのグループでの話し合い	③グループでの話し合いを行うにあたり、次の内容を伝える。 ア 目的は、家庭や地域と連携できる具体的な内容や活動等を考えることである。 イ 方法は、連携可能な内容について2～4人の少人数で意見交換を行い、研修シートの空欄に記入する。	③話し合いのグループをあらかじめ決めておく。また、時間が足りない場合は、オープンエンドにして、次回の研修に結び付ける。
5—			
6—			
7—			④発表は、研修の時間に合わせて行う。また、時間があれば質疑応答を行う。
8—			<b>【想定質問及び回答例】</b> Q1 家庭や地域と連携するために、どのようなことに留意しなければならないか。 A1 日頃から、児童・生徒の様子、教育活動の情報を学校便り等で伝えたり、学校行事等に参加してもらったり、地域と交流したりすることなどで、信頼関係を築くことが大切である。
9—	④検討内容の発表	④時間に応じて、数グループから発表してもらう。	
10—	⑤終了		

**2 解説Q&A**

- Q 1 勤労観・職業観の育成のために家庭・保護者はどのようなことをしなくてはならないか。
- A ○基本的な生活習慣を身に付けさせ、しつけを行う。  
○児童・生徒の話をよく聞き、児童・生徒を十分に理解し、自己肯定感をもたせる。  
○家事を分担させ、家庭での役割に責任感をもたせる。  
○様々な職業生活の実際や仕事には苦労もあるがやりがいもあることを伝える。  
○将来への夢をもたせ、自立心を育てる。
- Q 2 学校が保護者と連携を密にするためにはどのようなことを理解しておかなくてはならないか。
- A ○キャリア教育の必要性や学校の取り組みなどについて家庭・保護者と共通理解を図りながら進めることが重要である。  
○家庭や保護者の養育の在り方、働くことに対する考え方や態度が、子どものキャリア発達に大きな影響を与える。  
○子どもの進路に関する保護者の考え方や態度は多様である。  
○保護者が子どもたちに講話等を行うことの教育効果は大きく、保護者のそれらの活動の姿から子どもたちは多くのことを学ぶ。
- Q 3 企業、関係機関、地域社会等との連携活動にはどのようなものがあるのか。
- A ○職場体験・職場見学やインターンシップで児童・生徒を受け入れてもらう。  
○キャリア・アドバイザーとして学校に従業員等を派遣してもらい、様々な職業の話を伝えてもらう。  
○地域の行事やボランティア活動に児童・生徒を参加させてもらう。  
○大学・専門学校等におけるオープンキャンパス等に生徒を参加させたり、聴講させたりする。  
○小・中・高校生による相互の学校訪問や高校・大学からの「出前授業」などを行う。
- Q 4 企業、関係機関、地域社会等と連携活動を行うことにはどのような意義があるのか。
- A ○企業、関係機関、地域社会が自分の教育における役割や学校の取り組みを理解する。  
○多様な人とのかかわりを経験させ、コミュニケーション能力をはぐくむ。  
○仕事をしている人と話すことで、仕事に必要な資質や能力などを知る。  
○様々な仕事やそれに携わる人々の姿を見ることにより、仕事や働くことに対する興味・関心をもつ。
- Q 5 企業、関係機関、関係団体等と連携活動を行う際は、どのようなことに留意しなくてはならないか。
- A ○企業等は社会貢献の趣旨から、様々な相談ののってくれるが、それぞれの企業等がもつ多様な役割や機能を理解し、学校がどのような目的で連携事業を行いたいのかを明確にして相談することがなによりも大切である。

## B-1 キャリア教育の指導計画作成の視点と手順について

【研修のねらい】全教育活動を通して、組織的・計画的に行うためのキャリア教育の指導計画の作成の視点と手順を理解する。

### 1 キャリア教育の指導計画の必要性

### 2 キャリア教育の指導計画作成の視点

ア

を小学校・中学校・高等学校それぞれの発達段階に応じて、全教育活動を通して育成する。

### 3 キャリア教育の指導計画作成の手順

- (1) キャリア教育の全体計画の立案
- (2) キャリア教育の学年別年間指導計画の立案
- (3) 各教科等の学習指導案の立案

### 4 キャリア教育の全体計画作成の手順

～小学校の例～

学校の教育目標

育てたい児童像

キャリア教育の目標

#### (1) キャリア教育の目標の設定

学校教育目標  
育てたい児童像

キャリア教育の目標

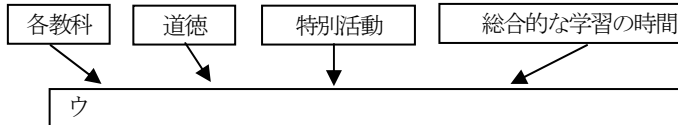
イ

		教科の活動	道徳の活動	特別活動の活動	総合的な学習の時間の活動
人間関係形成能力	低学年				
	中学年				
	高学年				
情報活用能力	低学年				
	中学年				
	高学年				
将来設計能力	低学年				
	中学年				
	高学年				
意思決定能力	低学年				
	中学年				
	高学年				

#### (2) キャリア教育に関する学習活動の体系化

キャリア教育の目標

育成したい4能力について



○各教科等ごとに、発達段階に応じた4能力の育成目標を達成するための学習活動を記入する。

○各教科等それぞれの目標を踏まえながら、相互の有機的な関連を図り、計画的・組織的に学習活動が行われるように検討する。

キャリア教育を推進する組織の名称：

校務分掌間の連携

異校種との連携

家庭・地域との連携

## B-1 キャリア教育の指導計画作成の視点と手順について

### 1 研修の進め方

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートB-1を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておく。
1	②キャリア教育の指導計画の必要性の理解 ・四角の空欄に記入する。	②キャリア教育の指導計画の必要性についての理解を深めるため、右の内容を四角の空欄に記入してもらう。	②【空欄に記入する内容〈全体計画の必要性〉】 キャリア教育を全教育活動を通して、系統的・組織的に行うためには、計画に基づき実施することが必要であるからである。
2	③キャリア教育の指導計画の作成の視点の理解 ・空欄アに記入する。	③キャリア教育の指導計画の作成の視点を説明しながら空欄アに右の内容を記入してもらう。	③【空欄アに記入する内容】 ア キャリア教育を通して育てたい4能力（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）
3	④キャリア教育の指導計画の作成の手順の理解	④キャリア教育の指導計画の作成の手順を研修シートに基づき説明する。	【共通理解を図る内容】 ア キャリア教育を通して育てたい4能力（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）
4	⑤キャリア教育の全体計画の作成の仕方の理解 ・空欄イ、ウに記入する。	⑤キャリア教育の全体計画の作成の手順を説明し、次に目標設定の仕方を説明しながら空欄イに記入してもらう。さらに学習活動の体系化の仕方を説明しながら空欄ウに記入してもらう。	【共通理解を図る内容】 イ キャリア教育を通して育てたい能力の検討 ウ 4能力の育成にかかわる学習活動の選択、整理
5		⑥不明な点や質問を受ける。 【想定質問及び回答例】 Q1 キャリア教育を行うためには特別なことを新しく行わなくてはいけないのか。 A1 現在の教育活動には、4能力の育成を図ることができる活動が多数ある。キャリア教育は特別なことではなく、これまでの教育活動の中で4能力の育成を意識することで実施することができる。 Q2 各教科、領域の目標とキャリア教育が合致していないときはどのようにしたらよいのか。 A2 各教科、領域の目標に基づいた学習活動を行う中で、4能力を育成できる活動を取り入れる。	④全体計画がほかの計画の基になることを伝える。 ⑤【共通理解を図る内容〈全体計画の作成の手順〉】 (ア) キャリア教育の目標を設定する。 (イ) 目標に基づき各教科、領域において4能力を育成できる学習活動を体系化するように検討する。 (ウ) キャリア教育の推進組織を明確にする。 (エ) 連携先を検討する。
6			【空欄イ・ウに記入する内容】 イ キャリア教育を通して育てたい能力の検討 ウ 4能力の育成にかかわる学習活動の選択、整理
7			【共通理解を図る内容〈目標設定の留意点〉】 ・その4能力をどの程度まで育てるのかという「4能力の育成目標」を明確にする。(参考：研修シートA-3「4能力の育成目標の例」) ・自校の児童・生徒の課題に基づいたキャリア教育の目標を設定する。
8			
9	⑥質疑応答		
10	⑦終了		

### 2 解説Q&A

- Q1 キャリア教育と関連を図って教育活動を行うために必要なことは何か。
- A
- キャリア発達には、児童・生徒が行うすべての学習活動等が影響するので、キャリア教育は学校のすべての教育活動を通して行う。
  - キャリア教育の全体計画やそれを具現化した指導計画を作成する。また、その際、各発達段階における能力・態度の到達目標を具体的に設定する。
  - 各学校においては、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の学習指導要領におけるキャリア教育に関連する事項（4能力の育成にかかわる事項）を確認し、相互の関連性や系統性に留意の上、有機的に関連付け、発達段階に応じた創意工夫ある教育活動の展開を行う。また、各学校の教育課程に適切に位置付けるとともに、校種間の連携や一貫性に留意する。
  - 職場体験やインターンシップなどの体験活動等は、勤労観・職業観の形成、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等、様々な教育効果が期待され、児童・生徒に現実に立脚した確かな認識をはぐくむ上で、欠かすことができないものである。また、それが一過性の行事とならないように事前・事後指導の充実が必要である。
- Q2 学校教育における各領域とキャリア教育はどのような関係があるのか。
- A
- 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間においては、当該各教科の学習を通して、自己の生き方を探究したり、将来就きたい職業や仕事への関心・意欲を高めたりすること、また、社会や産業の変化、労働者の権利や義務についての理解を深める取り組みを通して、目指すべき職業や上級学校の学部・学科を選択する力を身に付けることなどが考えられる。
  - 職業教育においては、生徒が自己の目指す将来の職業やその分野に関する知識や技能を習得したり、具体的な情報を得ることを通し、必要な資質・能力をより深く自覚し、専門的な知識・技能をより高めようとする意欲や姿勢を身に付けることなどが考えられる。
  - 特別活動、道徳、総合的な学習の時間はそれらが教科の学習で学んだ成果等を様々な体験活動や話し合い等を通して深化・発展、統合させたり、逆にその効果を教科の学習に還元し反映させていくというねらいをもっている。このため、そこで展開される職業や進路に関連する学習活動は、キャリア教育を進める上で、直接的かつ中核的な取り組みとして最も重要な役割を担うものである。

# B-2 キャリア教育の全体計画作成の仕方について ~A小学校の例~

【研修のねらい】 キャリア教育の全体計画の例を参考にキャリア教育の全体計画の作成の仕方を理解する。

学校の教育目標 責任を重んじ、適切な判断力と創造性に富んだ情操豊かで自主的、健康的な児童を育成する。

育てたい児童像 よく考え、心豊かでたくましく生きる児童

キャリア教育の目標 仲間とともに自分らしさを発揮し、未来を拓く能力を育成する。

	教科の活動	道徳の活動	特別活動の活動	総合的な学習の時間の活動	
人間関係形成能力	低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>事柄の順序を考えながら相手に分かるように話すこと (国語科)</li> <li>大事なことを落とさないように興味をもって聞くこと (国語科)</li> <li>身近な事柄について話題に沿って話し合うこと (各教科)</li> <li>自分の考えをはっきり発言すること (各教科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちのよいあいさつ、言葉遣いをする</li> <li>身近にいる幼い子や高齢者に親切にすること</li> <li>友達と仲よくし、助け合うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの活動で自分の意見をはっきり言うこと (学級活動)</li> <li>集会活動で友達と仲良く活動すること (児童会活動)</li> <li>運動会、学芸会などに助け合って取り組むこと (学校行事)</li> </ul>	
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えが分かるように筋道を立てて相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと (国語科)</li> <li>話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること (国語科)</li> <li>互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと (各教科)</li> <li>協力して活動に取り組むこと (各教科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること</li> <li>相手を思いやり親切にすること</li> <li>友達と互いに理解し合うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの活動で積極的に自分の意見を言うこと (学級活動)</li> <li>様々な集会活動に友達と協力して取り組むこと (児童会活動)</li> <li>運動会、学芸会などに友達を励まし、協力しながら取り組むこと (学校行事)</li> <li>クラブ活動に積極的に参加すること (クラブ活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ学習や異年齢集団による学習において積極的に自分の意見をいうこと</li> <li>協力して様々な活動に取り組むこと</li> </ul>
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことや話の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと (国語科)</li> <li>話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと (国語科)</li> <li>自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと (各教科)</li> <li>協力して活動に取り組むこと (各教科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること</li> <li>だれに対しても思いやりをもち、相手の立場に立つて親切にすること</li> <li>互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し、助け合うこと</li> <li>謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの活動で共同して具体的な解決策を見いだすこと (学級活動)</li> <li>集会活動の運営に参加すること (児童会活動)</li> <li>運動会、学芸会などにおいて役割に応じた責任を果たすこと (学校行事)</li> <li>クラブ活動に積極的に参加するとともに、下級生の面倒をみること (クラブ活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと</li> <li>協力して主体的に活動に取り組むこと</li> <li>異年齢の人たちと交わることで、多様な生き方、考え方を学ぶこと</li> </ul>
情報活用能力	低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>読んだ本の中で興味をもったところを紹介すること (国語科)</li> <li>先生や身近な人などに尋ねたことをまとめること (各教科)</li> <li>関係のある本を読むこと (各教科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の文章から課題となることを読み取ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書室の利用の仕方を知ること (学級活動)</li> </ul>	
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験したことを記録文や学級新聞に表すこと (国語科)</li> <li>見学・観察・調査をした結果や資料を整理し、表やグラフに表すこと (各教科)</li> <li>疑問に思ったことなどについて関係のある資料を探すこと (各教科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことをまとめること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書室の仕組みを理解し、積極的に利用すること (学級活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本などを活用して、課題解決の方法を自分で考えること</li> <li>見学・観察・調査をした結果や資料を整理し表やグラフで分かりやすく表現すること</li> </ul>
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量関係を統計的に考えること (算数科)</li> <li>調べたことやまとめたことを話し合うこと (各教科)</li> <li>自分の考えを資料を提示しながらスピーチすること (各教科)</li> <li>課題を解決するために資料やコンピュータなどで調べ、目的に応じた方法で表現すること (各教科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことを話し合うこと</li> <li>話し合ったことを分かりやすく発表すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書室などで本を選び、将来の生き方等を考えるために日常の学習で学校図書館を活用する態度を育てること (学級活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもち本などを活用して、課題にあった解決の方法を考えること</li> <li>調べたことやまとめたことを目的に応じて効果的に表現すること</li> </ul>
将来設計能力	低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活を支えている人々や友達のことがわかること (生活科)</li> <li>家庭生活を支えている家族のことや自分でできることを考え、自分の役割がわかること (生活科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなが使う物を大切にし、約束や決まりを守る</li> <li>父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして家族の役に立つ喜びを知ること</li> <li>先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の係の仕事をする (学級活動)</li> <li>誕生会などの集会の活動の準備や後片付けをすること (学級活動)</li> <li>入学式で小学校生活に希望をもたせること (学校行事)</li> </ul>	
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解すること (社会科)</li> <li>見学・観察・調査の際に計画をたてること (各教科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>約束や社会のきまりを守り、公德心をもつこと</li> <li>働くことの大切さを知り、進んで働くこと</li> <li>父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること</li> <li>先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の係の仕事をする (学級活動)</li> <li>1年間の目標を立て、振り返ること (学級活動)</li> <li>誕生会などの集会の活動で役割を果たすこと (学級活動)</li> <li>将来就きたい仕事を考えること (学級活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の計画を立てること</li> <li>役割を果たすこと</li> </ul>
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の産業の様子、産業と国民生活との関わりについて理解すること (社会科)</li> <li>我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めること (社会科)</li> <li>活動内容、分担、時間などを明らかにして見学・観察・調査の計画をたてること (各教科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすこと</li> <li>公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切に、進んで義務を果たすこと</li> <li>働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをすること</li> <li>先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで話し合いよりよい校風をつくること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の係の仕事をする (学級活動)</li> <li>お楽しみ会を計画し実施すること (学級活動)</li> <li>将来の夢や希望をもつこと (学級活動)</li> <li>1年間の目標と学期ごとの目標を立て、振り返ること (学級活動)</li> <li>クラブ活動の活動計画を立てること (クラブ活動)</li> <li>卒業式で中学校での生活に希望や意欲をもたせること (学校行事)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な教科で学んだことを生かしながら活動を進める計画をたてること</li> <li>積極的に役割を果たし、活動に取り組むこと</li> </ul>
意思決定能力	低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を自分の表現方法で完成させること (図画工作科)</li> <li>課題を最後まで解決しようとする (各教科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行うこと</li> <li>よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のやりたい係を決めること (学級活動)</li> </ul>	
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな発想や想像的な技能などを働かせ進んで表現すること (図画工作科)</li> <li>課題に向かっすすんで解決すること (各教科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分でやろうと決めたことは粘り強くやり遂げること</li> <li>正しいと思ったことは勇気をもって行うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のやりたい係を決めること (学級活動)</li> <li>児童会活動の運営に参加すること (児童会活動)</li> <li>興味のあるクラブを自分で決めること (クラブ活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で学んだことや体験したことを基に課題を決定すること</li> </ul>
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らつくりだす喜びを味わい、作品の完成に進んで取り組むこと (図画工作科)</li> <li>疑問をもち、答えを見いだそうとする (各教科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力すること</li> <li>心理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分に向いている係を決めること (学級活動)</li> <li>児童会活動を運営すること (児童会活動)</li> <li>目標をもって活動に取り組むこと (クラブ活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら課題設定をすること</li> <li>課題解決や探究の過程を通して自己の生き方を考えること</li> </ul>

キャリア教育を推進する組織の名称: キャリア教育推進委員会 (委員長: 教務主幹)

校務分掌間の連携 キャリア教育推進委員会・教務部・生活指導部・各学年	異校種との連携 近隣の幼稚園・保育所・中学校・高等学校	家庭・地域との連携 学校運営連絡協議会・PTA・同窓会・近隣町会・商店街等
---------------------------------------	--------------------------------	--

**B-2 キャリア教育の全体計画作成の仕方について ～A小学校の例～**

**1 研修の進め方**

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0	①研修のねらい等の理解	① 研修のねらい、内容を説明し、研修シートB-2を受講者に配布する。	① 研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておく。
1	②キャリア教育の全体計画における体系的な学習活動の計画の立て方の理解	② キャリア教育の目標を読み上げ、その目標を達成するために4能力それぞれの育成目標はどのような内容であるかを説明し、(この場合は研修シートA-3の「4能力の育成目標の例」に基づき作成した。)その目標を達成するための活動内容を、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間それぞれから1つずつ読み上げる。	② <b>【説明の例】</b> ・小学校中学年の「4能力の育成目標」の人間関係形成能力の目標である「友達のよいところを認め、励まし合う。」は、教科において「互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと」などの活動となっている。
2			
3			
4			
5	③キャリア教育の全体計画の具体的な作成の仕方を説明する。 <b>【説明の例】</b> 〈全体計画の作成の具体的な手順〉 ア キャリア教育の目標を検討する。 イ キャリア教育の目標を達成するための4能力それぞれの学習活動を「4能力の育成目標」に基づき、年間行事予定、学年別年間指導計画、学習指導案から選択し、カードや付せんを記入する。 ウ カードや付せんを並べ、内容の妥当性や学年ごとの系統性を検討する。	③ 入学から卒業までに全教科・領域で育成する4能力の目標を立てる。	
6			
7			
8	③キャリア教育の全体計画の具体的な作成の仕方の理解	④ 不明な点や質問を受ける。	④ <b>【想定質問及び回答例】</b> Q1 すべての教科・領域について記載しなくては行けないのか。 A1 その必要はないが、今までの教育活動の中で、4能力の育成にかかわる活動を数多く行っている。それをまとめることが大切である。 Q2 キャリア教育の全体計画はどのように活用するのか。 A2 学年別年間指導計画や学習指導案、行事計画などを作成する際の指針となる。
9	④質疑応答		
10	⑤終了		

**2 解説Q&A**

Q1 キャリア教育の全体計画を作成することの意義はどのようなことか。

A キャリア教育の全体計画を作成することはキャリア教育を推進するための第一歩である。キャリア教育の全体計画を作成する意義は次のとおりである。

- 4能力にかかわる教育活動を学年・教科等に関連付けることで、入学から卒業まで学校全体で系統的にキャリア発達を支援することができる。
- 各発達段階に身に付けることが求められる能力・態度の到達目標が、明確になる。
- 個々の活動がどのような能力・態度の形成を図ろうとするものであるか明確になる。
- 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などの様々な取り組みが有機的に関連付けられる。

Q2 キャリア教育の全体計画を作成する上での留意点はどのようなことか。

A ○4能力を入学時から卒業時まで、全教育活動を通して育成するように、自校の教育課程を見直す。その際、各教科・領域、進路指導、生活指導など、各校務分掌の関連する活動を再検討し、それぞれのねらいや内容を踏まえ、相互に関連付けを図る。

- 児童・生徒のキャリア発達を支援するような具体的な計画を体系的に作成する。
- 高等学校で生徒が自己の将来を見通した科目選択を行うためのガイダンスの機会や仕組みを充実させる。
- キャリアカウンセリングなどの個別の支援・指導を全体計画に位置付ける。
- 各校種が果たすべき役割や他校種における活動内容・方法等を把握し、校種間の連携や一貫性にも留意する。

Q3 キャリア教育を推進するために学校として必要な取り組みはどのようなことか。

- A ○指導計画(全体計画・学年別年間指導計画)を作成する。
- キャリア教育の担当者、担当組織を校務分掌に置く。
- 校内でキャリア教育推進のための教材開発や指導方法などの研修を行う。
- キャリア教育を推進する教員を育成することを目的とした校外の研修に参加する。
- キャリア教育推進のために、家庭や地域との連携を図る。

## B-3 キャリア教育の学年別年間指導計画作成の仕方について ～A小学校第4学年の例～

【研修のねらい】 キャリア教育の学年別指導計画の例を参考に学年別指導計画の作成の  
仕方を理解する。

学年の目標		教科	道徳の時間	特別活動	総合的な学習の時間
人間関係形成能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のよいところを見付ける。</li> <li>○友達のよいところを認め、励まし合う。</li> <li>○友達と協力して、学習や活動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチをする（国語科）</li> <li>・バスケットボール型ゲームをする（体育科）</li> <li>・話し合う（国語科）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友情</li> <li>・自立・節度</li> <li>・おもいやり</li> <li>・友情</li> <li>・礼儀</li> <li>・親切</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介をする</li> <li>・クラブ活動の役割を知る（学級活動）</li> <li>・遠足に行く（学校行事）</li> <li>・運動会をする（学校行事）</li> <li>・学芸会をする（学校行事）</li> <li>・6年生を送る会をする（児童会活動）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解、環境、福祉、健康のテーマから活動の内容について話し合いやグループ学習をする</li> <li>・地域の人にインタビューをする</li> <li>・話し合い・グループ学習をする</li> <li>・話し合い・グループ学習をする</li> </ul>
情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分からないことを、本やインターネットなどで調べたり、質問したりする。</li> <li>○いろいろな職業や生き方が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図を使って水源地や川、浄水場の位置を確かめる（社会科）</li> <li>・表の見方を理解する（算数科）</li> <li>・読書新聞をつくる（国語科）</li> <li>・折れ線グラフの読み方、書き方を理解する（算数科）</li> <li>・データ整理の仕方を理解する（算数科）</li> <li>・水の温度変化をグラフで表す（理科）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について考えたことをまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の仕組みを理解する（学級活動）</li> <li>・図書室で借りた本の紹介をする（学級活動）</li> <li>・本の読書感想文を文集にまとめる（学級活動）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解、環境、福祉、健康のテーマの課題を図書室の本やインターネットなどで調べる</li> <li>・まとめ方を考える</li> <li>・活動についてまとめる</li> <li>・活動についての発表会をする</li> </ul>
将来設計能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○互いの役割や役割分担の必要性が分かる。</li> <li>○計画づくりの必要性に気づき、作業の手順が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ処理や飲料水の確保について理解する（社会科）</li> <li>・都内の様々な地域に住んでいる人の生活の様子を調べる計画を立てる（社会科）</li> <li>・水を熱した時に生じるものを確認する実験を計画する（理科）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公德心</li> <li>・家族愛</li> <li>・勤労</li> <li>・規則</li> <li>・愛校心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の目標を立てる（学級活動）</li> <li>・係からの連絡をする（学級活動）</li> <li>・夢について考える（学級活動）</li> <li>・学芸会の練習をする（学級活動）</li> <li>・将来の仕事を考える（学級活動）</li> <li>・1年間の反省をする（学級活動）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解、環境、福祉、健康のテーマの活動計画を立てる</li> <li>・活動計画に沿って活動を進める</li> <li>・活動結果をまとめる</li> <li>・活動の発表会の準備をする</li> </ul>
意思決定能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、すすんで取り組む。</li> <li>○自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーで課題曲を演奏できるようにする（音楽科）</li> <li>・跳び箱を跳び越えられるようにする（体育）</li> <li>・夢の世界の絵をかきあげる（図画工作科）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤勉・努力</li> <li>・勇気</li> <li>・勤勉・努力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係を決める（学級活動）</li> <li>・クラブを決める（クラブ活動）</li> <li>・運動会の選手を決める（学級活動）</li> <li>・劇の配役を決める（学校行事）</li> <li>・6年生を送る会の準備や片づけをする（児童会活動）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解、環境、福祉、健康のテーマから各教科等で学んだことを基に課題をきめる</li> <li>・より良い活動内容を考え、活動する</li> <li>・よりよいまとめ方や発表の仕方を考える</li> <li>・発表の練習をする</li> </ul>

## B-3 キャリア教育の学年別年間指導計画作成の仕方について ～A小学校第4学年の例～

## 1 研修の進め方

時間 (分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートB-3を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておく。
1	②キャリア教育の学年別年間指導計画作成の手順の理解	②キャリア教育の学年別年間指導計画作成の手順を説明する。 〈学年別年間指導計画作成の手順〉	②全体計画に基づき4能力を育成するための具体的な指導計画作成する。
2		ア 「4能力の育成目標」の自校の児童・生徒の学年等に応じた各能力の目標を学年の目標欄に書き写す。	③【説明の例〈教科において意思決定能力を育成するための活動〉】
3		イ 「キャリア教育の全体計画」で計画した活動を各能力の目標に基づき、自校の年間行事予定、学年別年間指導計画、学習指導案から選び、カードや付せん記入する。	ア 研修シートA-3の「4能力の育成目標の例」で該当する意思決定能力の育成目標を確認する。
4	③研修担当者による例示	ウ カードや付せんを並べ、内容や育成する能力の妥当性を検討する。	イ 研修シートB-2の「キャリア教育の全体計画」の意思決定能力の小学校中学年の活動を確認する。
5			ウ 育成目標、全体計画にふさわしい活動を年間行事予定、学年別年間指導計画、学習指導案から検討する。
6		③ある学習活動について活動内容を選択する流れを実際に示す。	エ その結果、図画工作科の「夢の世界の絵をかきあげる」という活動を選ぶ。
7			*研修シートA-3の「4能力の育成目標の例」、研修シートB-2の「キャリア教育の全体計画」を拡大コピーして掲示する。または、受講者に参考資料として配布する。
8	④質疑応答	④不明な点や質問を受ける。	④【想定質問及び回答例】
9			Q1 教科・領域の目標と4能力の育成目標に合致するものがないがどうしたらよいのか。
10	⑤終了		A1 各教科・領域にはそれぞれの学習目標がある。キャリア教育は、その目標に沿った教育活動の中で、4能力の育成を図ることができる手だてを取り入るとよい。

## 2 解説Q&amp;A

Q1 キャリア教育の学年別年間指導計画作成することの意義はどのようなことか。

A キャリア教育の学年別年間指導計画作成することにより、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、進路指導、生活指導などの様々な取り組みを、相互に関連付け、有機的に全教育活動を通してキャリア教育を行うことができる。

Q2 キャリア教育を実施し、充実させるためには、評価活動が必要である。キャリア教育の評価とはどのようなものか。

A 評価活動には、次のようなものがある。

〈児童・生徒のキャリア発達に対する評価〉

- ・児童・生徒の自己評価（「D-1 自己を見つめる力を育てるための指導の在り方について ～活動記録を用いて～」、  
「D-2 活動記録の活用の仕方について」参照）
- ・保護者との面談による情報（「C-2 家庭・保護者との連携活動について」参照）
- ・職業適性テストなどの進路適性テスト

〈学校のキャリア教育に関する教育活動に対する評価〉

- ・教員による授業評価（学校評価の項目に加える）
- ・児童・生徒による授業評価
- ・保護者・地域等による学校外からの評価（家庭や地域と連携した活動後の評価や年度末の学校評価）
- ・一人一人の教員によるキャリア教育に対する自己評価



## B-4 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～教科(国語科)の例～

【研修のねらい】キャリア教育と関連を図った教科の授業の進め方のポイントを検討する。

### キャリア教育と関連を図った授業のポイント

- 教科の目標に沿った授業展開の中で、育成できる4能力を明確にし、4能力の育成を図ることができる活動・支援・評価を取り入れる。
- 自己を振り返り、活動記録に記入する活動を取り入れる。

### 小学校第2学年 国語科学習指導計画

- 1 単元名 夏休みの思い出を発表しよう（話すこと・聞くこと）
- 2 単元の目標
  - ・夏休みに経験したことについて、順序を考えながら話すことができる。
  - ・大事なことを落とさないように友達の発表を聞くことができる。
- 3 単元指導計画（全3時間）

#### 育成する能力

- ・人間関係形成能力
- ・情報活用能力

時	主な学習活動	●支援 ☆評価				
第一時	○単元の目標を確認する。 ○学習の見通しをもつ。 夏休みの思い出を発表しよう ○発表する話題を考える。 ○自分の話したい話題を決める。 (例) 夏休みにあさがおの花がさいてうれしかったこと ○話す内容をカードに書く。 (例) ・水やりのこと ・台風のこと ・つぼみのこと ・花が咲いたこと	●単元の目標をとらえやすくするために、掲示物などを活用しながら児童に分かる言葉で目標を示す。 (例) 「夏休みのことについて、順序を考えて発表したり、友達の発表を大事なことを落とさないで聞いたりしていきましょう。」 ●楽しかったこと、見付けたこと、がんばったことなど、具体的な例を紹介する。 ●内容が相手によく分かるように、話題に関する物や写真などをもってきてよいことを伝える。 ☆話したい事柄を選ぶことができる。				
第二時	○よい話し方、聞き方について考える。 <話す・聞くときに気を付けること> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>話す</th> <th>聞く</th> </tr> <tr> <td>                             ○相手を見ながらゆっくり最後まで話す                              ○発音に注意してはっきりと話す                              ○絵や物を使ったり動作を付けたりして話す                              ○順序を表す言葉を使う など                         </td> <td>                             ○相手を見ながら話を最後まで聞く                              ○反応しながら聞く                              (うなずきなど)                              ○順序を表す言葉や文末表現に気を付けて聞くなど                         </td> </tr> </table>	話す	聞く	○相手を見ながらゆっくり最後まで話す ○発音に注意してはっきりと話す ○絵や物を使ったり動作を付けたりして話す ○順序を表す言葉を使う など	○相手を見ながら話を最後まで聞く ○反応しながら聞く (うなずきなど) ○順序を表す言葉や文末表現に気を付けて聞くなど	●話す・聞くときに気を付けることを模造紙などで示す。
話す	聞く					
○相手を見ながらゆっくり最後まで話す ○発音に注意してはっきりと話す ○絵や物を使ったり動作を付けたりして話す ○順序を表す言葉を使う など	○相手を見ながら話を最後まで聞く ○反応しながら聞く (うなずきなど) ○順序を表す言葉や文末表現に気を付けて聞くなど					
第三時	○話し方、聞き方のよい例を見る。 ○カードに書いた話す内容を順序を考えて並べ替える。 ○二人で向き合って、発表の練習をする。 ○相手を代えて練習をする。 ○よかったところを発表する。	●教員が上記の例を参考に見本を示す。 ● <u>よかったところを相手に伝え、分からないことを質問するように助言する。</u> ☆順序を考えて話している。 ☆分からないことは質問している。				
第三時	○話し方、聞き方を確認する。 ○話す内容を確認する。 ○グループで発表会を行う。 ○クラス全体でよかったことを発表し合う。 ○学習を振り返り、自己評価を行う。	● <u>前時で学習したことを踏まえ、順序を表す言葉を使うこと、反応しながら聞くことなどを指導する。</u> ☆順序を考えて相手に分かるように話している。 ☆大事なことを落とさないように聞き、分からないことを質問している。 ●学習内容を振り返り、具体的に活動記録に記入できるように書き方の例を示す。				

#### 本単元において キャリア教育と 関連を図るための ポイント

##### 人間関係形成能力

人間関係はお互いの考えを伝え合うことから始まり、国語科で育成する話す力、聞く力の育成は人間関係形成能力を高める基礎となる。

##### 情報活用能力

相手の話の大事なことを聞き取り、分からないことは質問する経験を繰り返すことが、情報活用能力の育成につながる。

##### 人間関係形成能力

聞き手を意識して話したり、話し手を見て聞いたりするような場を設定し、継続して取り組むことが大切である。

**B-4 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～教科(国語科)の例～**

**1 研修の進め方**

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートB-4を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておくとともに、グループでの話し合いに重点をおくようにする。
1	②キャリア教育と関連を図った教科の授業を行う上でのポイントの理解	②キャリア教育と関連を図った教科の授業を行う上でのポイントについて研修シートを基に、次の内容を説明する。 ・「夏休みの思い出を発表する」は、人間関係形成能力として、国語科の「話すこと、聞くこと」に関連させて、育成することができること ・「よかったところを相手に伝え、分からないことを質問する」という助言は、情報活用能力の育成に結び付き、指導法の工夫・改善点となること	②【共通理解を図る内容】 ・教科等の目標達成を図る上で、学習活動における指導内容・方法・評価等が、キャリア教育で育成する4能力に結び付くという考え方
2			③【共通理解を図る内容】 ・普段行っている授業方法の工夫に着目し、調べ学習では情報活用能力、発表形式の授業は人間関係形成能力、問題解決学習は意思決定能力等の育成に結び付くこと ・キャリア教育との関連を見いだすことにより、確かな学力の向上に結び付く指導内容・方法の工夫や授業改善となること
3		③グループでの話し合いを行うにあたり、次の内容を伝える。 ア 目的は、普通の授業を振り返り、キャリア教育との関連を図った指導内容や方法を見いだすことである。 イ 方法は、普通の授業を想定して、キャリア教育で育てる4能力の育成と関連のある指導内容・方法等について、2～4人の少人数で話し合う。	【留意点】 ・グループでの話し合いの内容を深めるため、研修担当者は、解説Q&Aを参考に、キャリア教育と関連する授業方法等を情報提供する。
4	③普通の授業における指導内容・方法とキャリア教育との関連や可能性についてのグループでの話し合い		④発表は、研修の時間に合わせて行う。また、時間があれば質疑応答を行う。 【想定質問及び回答例】 Q1 国語科の授業のほかに、どのような教科で人間関係形成能力を育成することができるか。 A1 どの教科においても、話し合いをしたり、自分の考えを相手に分かりやすく説明したりすることで育成できる。
5			
6			
7			
8			
9	④検討内容の発表	④検討した指導内容や方法等について、数人に発表してもらう。	
10	⑤終了		

**2 解説Q&A**

- Q1 キャリア教育の目標とキャリア教育で育てる4能力との関連を見いだしてどのように授業を行うことができるのか。  
A キャリア教育と学習内容との関連は教科によって異なる。教科や単元によって、重点的に育てやすい能力がある。例えば、国語科における人間関係形成能力、社会科における情報活用能力などのように、考えやすいところから始めるとよい。
- Q2 キャリア教育の核となる主な教育活動はどのようなものか。  
A ○学級や学年の友達、異学年集団、地域の人など、多様な人々とのかかわりを重視した活動  
○ものづくり、職場体験、インターンシップ、ボランティア活動などの体験活動  
○異校種、家庭、地域、関係機関等との連携による活動  
○学習のまとめとして、児童・生徒が学習成果を振り返り、次へのめあてをもつ活動  
○進路指導など、将来の人生を考える活動 など
- Q3 研修シートの例のほかに、どのような授業ができるか。(小学校の例)  
A 例1 「大きくなった自分を考える」(生活科)〈人間関係形成能力の育成〉  
例2 「わたしたちの地域の商店について調べる」(社会科)〈情報活用能力の育成〉  
例3 「表やグラフを活用する」(算数科)〈情報活用能力の育成〉  
例4 「家族との生活について考える」(家庭科)〈将来設計能力の育成〉  
例5 「実験の計画をたてる」(理科)〈意思決定能力の育成〉 など

## B-5 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ~道徳の例~

【研修のねらい】 キャリア教育と関連を図った道徳の授業の進め方のポイントを検討する。

### キャリア教育と関連を図った授業のポイント

- 道徳の目標に沿った授業展開の中で、育成できる4能力を明確にし、4能力の育成を図ることができる活動・支援・評価を取り入れる。
- 自己を振り返り、活動記録に記入する活動を取り入れる。

### 小学校第5学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 公共のマナー 〈4-(2) 公德心・規則尊重〉  
資料名 母からのメモ (平成8年文部省資料)
- 2 本時の目標
  - ・公德心をもち、自分の役割を自覚してともにきまりを守ろうとする態度を養う。
- 3 本時の展開

**育成する能力**

・人間関係形成能力

	主な学習活動 (主な発問と予想される児童の反応) ◎中心発問	●支援 ☆評価
導入	1 目指す能力を確認する。 2 自分より年下の子と一緒に電車やバスに乗ったときの気持ちを発表する。	●単元の目標をとらえやすくするために、掲示物などを活用しながら児童に分かる言葉で目標を示す。 (例)「今日はマナーについて学習します。マナーは人と一緒に生活するのに必要ですね。」 ●日常生活を想起させ、ねらいとする価値への方向付けをする。
展開前段	3 資料「母からのメモ」を読んで話し合う。 ○文子はどのようなことを考えながら弟に「お姉ちゃんの言うことをよく聞くのよ。」と話したのでしょうか。 ・お母さんのメモを見てしっかり守ろう。 ・弟は言うことを聞いてくれるかな。 ○電車のドアが開いてどっと押されて乗り込んでしまった文子はどんな気持ちになったのでしょうか。 ・降りる人が先じゃないの。弟はどう思ったかな。大人は約束をどう思っているの。 ◎お母さんとの会話で文子はどんなことを考えたのでしょうか。 ・大人の批判しなかった。 ・姉として弟に正しいマナーを教えなければいけなかった。 ○文子は弟にどのように話したのでしょうか。 ・人の迷惑にならないようにするのよ。 ・困っている人には席を譲ろうね。 ・いつも、今のように降りようね。	● <u>文子の心の変化を共感的にとらえられるようにする。</u> ●グループごとに話し合ったことを吹き出しに書き、黒板に貼っていく。 ●電車に乗るとき、電車の中、電車を降りるときのそれぞれを取り上げる。 ●ワークシートに具体的に書けるように言葉かけをする。 ☆文子の心の変化を共感的にとらえることができたか。
展開後段	4 自分の生活を振り返る。 ○みんながマナーやルールを守ることができるようにするために、今の自分に何ができるか日常生活を振り返って考えましょう。	● <u>児童一人一人が、展開前後で得たねらいとする価値にかかわる内容と自分の生活を照らし合わせて振り返らせるようにする。</u>
終末	5 教員の話聞く。 6 自己評価を行う。	●教員自身の経験を話すのもよい。 ☆自分の生活を振り返り、自分の役割を自覚して公共のきまりを守ろうとする気持ちをもつことができたか。

**本単元において  
キャリア教育と  
関連を図るための  
ポイント**

人間関係形成能力

道徳の時間とキャリア教育とは関連が深い。ここではぐくまれる道徳的実践力は、人間関係形成能力に欠かせないものである。

人間関係形成能力

主人公の気持ちを考えることにより、道徳的価値の自覚が深まり、人間関係形成能力が高まる。

将来設計能力

最後に自分を振り返ることが重要である。このとき、自己肯定感をもち、自分の役割を自覚し、社会のルールの大切さに気付かせる。

**B-5 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～道徳の例～**

**1 研修の進め方**

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0—	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートB-5を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておくとともに、グループでの話し合いに重点をおくようにする。
1—	②キャリア教育と関連を図った道徳の授業を行う上でのポイントの理解	②キャリア教育と関連を図った道徳の授業を行う上でのポイントについて研修シートを基に、次の内容を説明する。 ・「マナーについて学習する」ことを「マナーは人と一緒に生活するのに必要ですね。」と他者との関係において価値付ける言葉掛けは、人間関係形成能力の確かな育成につながることを ・「文子の心の変化を共感的にとらえられるようにする」という働きかけは、思いやりの心をはぐくみ、人間関係形成能力の育成に結び付くこと	②【共通理解を図る内容】 ・道徳の目標達成を図る上で、学習活動における指導内容・方法・評価等が、キャリア教育で育成する4能力に結びつくという考え方を ・道徳で育成する道徳的実践力はキャリア教育で育成する4能力に結びつくこと
2—	③普通の授業における指導内容・方法とキャリア教育との関連や可能性についてのグループでの話し合い	③グループでの話し合いを行うにあたり、次の内容を伝える。 ア 目的は、普通の授業を振り返り、キャリア教育との関連を図った指導内容や方法を見出すことである。 イ 方法は、普通の授業を想定して、キャリア教育で育てる4能力の育成と関連のある指導内容・方法等について、2～4人の少人数で話し合う。	③【共通理解を図る内容】 ・普段行っている道徳の授業の中で、礼儀や親切を学ぶことは人間関係形成能力、規則や勤労は将来設計能力、勤勉・努力は意思決定能力の育成に結びつくこと ・キャリア教育との関連を見いだすことにより、道徳的実践力の向上に結びつく指導内容・方法の工夫や授業改善となること
3—			④発表は、研修の時間に合わせて行う。また、時間があれば質疑応答を行う。 <b>【想定質問及び回答例】</b> Q1 道徳の授業で将来設計能力を育成するためにほかにどのような手だてがあるか。 A1 目標に向かって努力することの大切さや良いことと悪いことを区別し、良いことを行うことの重要性を考えるなど。
4—			
5—			
6—	④検討内容の発表	④検討した指導内容や方法等について、数人に発表してもらう。	
7—			
8—	⑤終了		
9—			
10—			

**2 解説Q&A**

Q1 道徳とキャリア教育はどのように関連しているのか。

A 道徳教育の目標は、児童・生徒の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的実践意欲と態度の向上を図ることを通して、人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成することである。このためキャリア教育と深い関係がある。

Q2 キャリア教育の視点を加えた道徳の授業は、どのようにすればよいのか。

A ①道徳の目標とキャリア教育で育てる4能力との関連を見出して授業を行うことで、キャリア教育の視点に立った授業を行うことができる。  
②道徳の目標と内容はキャリア教育と密接に結び付く。勤労観・職業観の育成を考えて取り組むことが大切である。

Q3 研修シートの例のほかに、どのような授業ができるのか。

A 例1 第1学年 主題名「家の仕事」  
資料名「さやかさんのおにぎりづくり」〈4-(2)家族愛〉(平成6年文部省資料)〈将来設計能力の育成〉  
例2 第3学年 主題名「あきらめないで最後まで」  
資料名「ぼくらは小さななかにはかせ」〈(3)勤勉努力〉(平成7年文部省資料)〈意思決定能力の育成〉

## B-6 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～総合的な学習の時間の例～

【研修のねらい】キャリア教育と関連を図った総合的な学習の時間の授業の進め方のポイントを検討する。

### キャリア教育と関連を図った授業のポイント

- 総合的な学習の時間の目標に沿った授業展開の中で、育成できる4能力を明確にし、4能力の育成を図ることができる活動・支援・評価を取り入れる。
- 自己を振り返り、活動記録に記入する活動を取り入れる。

### 中学校第2学年 総合的な学習の時間学習指導計画

- 1 単元名 わく (Work) わく (Work) Week Tokyo
- 2 単元の目標
  - 働くことの意義を理解し、働くために必要な姿勢に気付くとともに、体験する職業における自分の課題を見付ける。
  - 社会的なマナーやルールを身に付ける。
  - 異世代間も含めたコミュニケーション能力を身に付ける。
  - 自分が発見した課題を集めた情報や自らの考えを工夫してまとめ、他の人に伝える。
- 3 単元指導計画 (体験活動30時間を含む全40時間)

#### 育成する能力

- ・人間関係形成能力
- ・情報活用能力
- ・将来設計能力
- ・意思決定能力

	主な学習活動	●支援 ☆評価
事前指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の目標を確認する。</li> <li>○職場体験の意義を話し合う。</li> <li>○体験先の希望調査を行う。</li> <li>○体験先の話聞き、求められている姿勢について考える。</li> <li>○体験する職場の仕事内容について調べ、体験活動における自分の課題をもつ。</li> <li>○マナー講習で、マナーを身に付ける。</li> <li>○自己PR書を書き、事前訪問をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●単元の目標をとらえやすくするために、掲示物などを活用しながら生徒に分かる言葉で目標を示す。 (例)「<u>職場体験で多くの人と交わり、働くとはどんなことかを学び、将来に向けてどんなことを今、しなくてはいけないのか考えてみましょう。</u>」</li> <li>●計画や注意事項、日々の記録を書き込めるしおりを作成しておく。</li> <li>☆体験先が求めている姿勢を理解している。</li> <li>☆主体的に取り組み、体験する職業について調べたことをもとに、自己PR書を書いているか。</li> </ul>
体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各事業所に分かれて体験活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員が各体験先を訪ね、受け入れ事業主の話聞き、生徒に声をかける。</li> <li>☆マナーに気を付け、主体的に体験活動に取り組んでいるか。</li> </ul>
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○礼状を書く。</li> <li>○体験したことや考えたことをグループごとにまとめる。</li> <li>○発表会を行う。</li> <li>○自己の適性や進路を考える。</li> <li>○自己評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●報告書として冊子にする、壁新聞にまとめるなど、生徒の実態に応じて工夫する。</li> <li>☆中学校で、今、しなくてはならないことに気付いているか。</li> <li>●自己を振り返り、活動記録に記入させる。</li> <li>☆体験したことや考えたことをまとめ、発表会で伝えられたか。</li> </ul>

#### 本単元において キャリア教育と 関連を図るため のポイント

##### 将来設計能力

体験を通して仕事や職業における苦勞や喜び、職業や働くことの意義や役割についての理解や自覚を深めることは職業観や勤労観の育成につながる。

人間関係形成能力  
情報活用能力  
将来設計能力  
意思決定能力

事前指導、事後指導は、4能力の育成に重要であり、それらも含め、学習指導計画を立てる。

## B-6 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～総合的な学習の時間の例～

## 1 研修の進め方

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートB-6を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておくとともに、グループでの話し合いに重点をおくようにする。
1	②キャリア教育と関連を図った総合的な学習の時間の授業を行う上でのポイントの理解	②キャリア教育と関連を図った総合的な学習の時間の授業を行う上でのポイントについて研修シートを基に、次の内容を説明する。 ・「職場体験で多くの人と交わり、働くとはどんなことを学ぶ」は、仕事や職業の意義や役割について理解を深めさせ、将来設計能力を育成することができること ・体験活動のみではなく、事前・事後の指導を充実させることが、キャリア教育での4能力の育成に重要であること	②【共通理解を図る内容】 ・総合的な学習の時間のねらいはキャリア教育と関連が深く、学習活動における指導内容・方法・評価等がキャリア教育で育成する4能力に結びつくこと
2			
3			
4	③普段の授業における指導内容・方法とキャリア教育との関連や可能性についてのグループでの話し合い	③グループでの話し合いを行うにあたり、次の内容を伝える。 ア 目的は、普段の授業を振り返り、キャリア教育との関連を図った指導内容や方法を見出すことである。 イ 方法は、普段の授業を想定して、キャリア教育で育てる4能力の育成と関連のある指導内容・方法等について、2～4人の少人数で話し合う。	③【共通理解を図る内容】 ・普段行っている授業方法の工夫に着目し、社会体験活動では将来設計能力、討論形式の授業は人間関係形成能力、探求活動は意思決定能力等の育成に結びつくこと ・キャリア教育との関連を見出すことにより、学び方や問題解決能力、主体性、自己理解等の向上に結び付く指導内容・方法の工夫や授業改善となること 【留意点】 ・グループでの話し合いの内容を深めるため、研修担当者は、解説Q&Aを参考に、キャリア教育と関連する授業方法等を情報提供する。
5			
6			
7	④検討内容の発表	④検討した指導内容や方法等について、数人に発表してもらう。	④発表は、研修の時間に合わせて行う。また、時間があれば質疑応答を行う。 【想定質問及び回答例】 Q1 総合的な学習の時間の授業で意思決定能力を育成するためにほかにもどのような手だてがあるか。 A1 課題を自分で考えさせる、自分の分担の作業を責任をもって行わせるなど。
8			
9			
10	⑤終了		

## 2 解説Q&amp;A

Q1 総合的な学習の時間とキャリア教育はどのように関連しているのか。

A 総合的な学習の時間のねらいは、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方や生き方を考えることができるようにすることにある。また、ボランティア活動や就業体験などの社会体験、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習などを積極的に取り入れた学習活動がなされる。したがって、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力を育成するために、重要な役割を担っている。

Q2 研修シートの例のほかに、どのような例があるか。

- A 例1 小学校 「地域の人々の仕事について調べる」 〈情報活用能力の育成〉  
例2 中学校 「社会福祉施設との交流」 〈情報活用能力の育成〉  
例3 高等学校 「ボランティア活動」 〈将来設計能力の育成〉

## B-7 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～特別活動(ホームルーム活動)の例～

【研修のねらい】 キャリア教育と関連を図った特別活動の授業の進め方のポイントを検討する。

### キャリア教育と関連を図った授業のポイント

- 特別活動の目標に沿った授業展開の中で、育成できる4能力を明確にし、4能力の育成を図ることができる活動・支援・評価を取り入れる。
- 自己を振り返り、活動記録に記入する活動を取り入れる。

### 高等学校第1学年 ホームルーム活動 進路指導計画

- 1 活動名 進路を考える
- 2 活動の目標
  - 自己の個性や能力、適性を理解する。
  - 自己を生かした卒業後の進路を見据え、高校生活の目標を考える。
- 3 進路指導計画 (全4時間)

#### 育成する能力

- ・人間関係形成能力
- ・情報活用能力
- ・将来設計能力
- ・意思決定能力

#### ●キャリア教育と関連を図った進路指導を行うためのポイント

- (1) 一人一人の4能力の発達状況に応じて、その発達を促す指導と進路決定のための指導を系統的に行う。
- (2) 個人の適性と職業や進路先との適合とともに社会や集団への適応の指導を重視する。

実施時期	時	主な学習活動	●支援 ☆評価
4月	1時間	○学習活動の目標を確認する。  ○自分の性格や適性などを考え、自己PR書にまとめ、自己紹介を行う。	●学習活動の目標をとらえやすくするために、掲示物などを活用しながら生徒に分かる言葉で目標を示す。 (例) 「 <u>自分の長所や短所、得意なこと、興味のあることを考えてみましょう。自己理解を深めることは、人間関係をつくる土台となり、将来の生き方や進路・職業を適切に選択することにつながります。</u> 」 ●生徒自身がどの程度自己理解しているかをつかみ、今後の指導に生かす。 ☆自己の個性や能力、適性を理解して自己紹介を行うことができたか。
7月	1時間	○夏休みの課題「仕事を調べる」について説明する。 (課題の内容) ・一つの仕事を例に、その仕事の内容を調べ、その仕事に必要な適性を考える。 ・将来の自分の仕事を考え、その仕事に就くための方法を調べる。	●仕事には関連する様々な仕事があることに気付かせる。 ●やってみたい仕事とできそうな仕事の両面から考えさせる。 ☆仕事に必要な適性を考え、仕事を調べることができたか。
11月	2時間	○卒業生や上級学校の職員などから、進学後に学ぶことについて話を聞く。 (課題) ・進学するとしたら、何を学ぶかについて考え、進学するための方法を調べる。 ・上級学校を卒業した後の職業について考える。 ・進学と就職の共通点や違いを考える。 ○これからの高校生活の目標を考え、計画書にまとめる。  ○自己評価を行う。	●生徒が知っている進学先や進学して学ぶことを考えさせてから話を聞かせる。 ●興味・関心のあること、適性のあること、進学の目的、将来の職業などを明確にさせる。 ●学問の意義、働くことの意義、社会の一員としての責任や義務、学費や給料など様々な面に気付かせる。 ●第2学年からの教科やコースの選択をする際には、将来の生き方を考え、自分の進路を検討し、それを実現するためにどうあるべきかという姿勢で臨ませる。 ☆自己理解したことや、将来の目標のために、高校生活でなくてはいけないことをまとめることができたか。 ●学習内容を振り返り、具体的に活動記録に記入できるように書き方の例を示す。 ☆自己を生かした卒業後の進路を考え、高校生活の目標を立てることができたか。

#### 本単元において キャリア教育と 関連を図るため のポイント

人間関係形成能力  
将来設計能力

長所や短所、得意なこと、興味のあることを自分自身が認識することは、自分を他者に理解してもらい、他者を理解し人間関係を築くことにつながる。また、将来の生き方や進路・職業の適切な選択につながる。

情報活用能力

仕事や職業に対する理解や認識を深めることで、将来に対する幅広い選択肢が用意され、働くことを自己の生き方の問題とすることができるようになる。

将来設計能力  
意思決定能力

進路選択に至る過程は、「自己の適性と進路(職業)理解→勤労観・職業観の形成→将来計画の立案→進路選択」となる。これらの過程が相互に影響しあいながらキャリア発達がなされる。

**B-7 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～特別活動の例～**

**1 研修の進め方**

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点	
0	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートB-7を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておくとともに、グループでの話し合いに重点をおくようにする。	
1	②キャリア教育と関連を図った特別活動の授業を行う上でのポイントの理解	②キャリア教育と関連を図った特別活動の授業を行う上でのポイントについて研修シートを基に、次の内容を説明する。 ・「自分の個性や能力、適性を理解する」は、人間関係形成能力を高め、進路の適切な選択につながり将来設計能力を育成することができること ・「仕事を調べることを通して、様々な仕事があることに気付かせる」という指導は、情報から働くことを自己の生き方の問題として考えさせ、情報活用能力の育成に結び付き、指導法の工夫・改善点となること	②【共通理解を図る内容】 ・特別活動の目標達成を図る上で、学習活動における指導内容・方法・評価等が、キャリア教育で育成する4能力に結びつくという考え方 ・キャリア教育と関連を図って進路指導を行うためのポイントは以下のとおりであること ア 児童・生徒一人一人の4能力の発達状況に応じて、その発達を促す指導と進路決定のための指導を系統的に行うこと イ 個人の適性と職業や進路先との適合とともに社会や集団への適応の指導を重視すること	
2				
3				
4				③普通の授業における指導内容・方法とキャリア教育との関連や可能性についてのグループでの話し合い
5				
6	③グループでの話し合いを行うにあたり、次の内容を伝える。 ア 目的は、普通の授業を振り返り、キャリア教育との関連を図った指導内容や方法を見出すことである。 イ 方法は、普通の授業を想定して、キャリア教育で育てる4能力の育成と関連のある指導内容・方法等について、2～4人の少人数で話し合う。	③【共通理解を図る内容】 ・普段行っている授業方法の工夫に着目し、調べ学習では情報活用能力、発表形式の授業は人間関係形成能力、問題解決学習は意思決定能力等の育成に結び付くこと ・キャリア教育との関連を見出すことにより、集団や社会の一員としての態度、生き方、在り方についての自覚、自己を生かす能力に結び付く指導内容・方法の工夫や授業改善となること <b>【留意点】</b> ・グループでの話し合いの内容を深めるため、研修担当者は、解説Q&Aを参考に、キャリア教育と関連する授業方法等を情報提供する。		
7				
8				
9	④検討内容の発表	④検討した指導内容や方法等について、数人に発表してもらう。	④発表は、研修の時間に合わせて行う。また、時間があれば質疑応答を行う。 <b>【想定質問及び回答例】</b> Q1 特別活動の授業で情報活用能力を育成するためにはほかどのような手だてがあるか。 A1 ・テーマを決めて新聞記事を収集し、自分の考えをまとめスピーチさせる。 ・修学旅行先の歴史、文化、産業を調べさせたり、自由行動の行程表を作成させる。	
10	⑤終了			

**2 解説Q&A**

Q1 特別活動とキャリア教育は、どのように関連しているか。

A 特別活動の内容は、学級や学校の生活への適応や個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関すること、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関するものなどである。このため、キャリア教育を進める上で重要な役割を担っている。

Q2 キャリア教育の視点を加えた特別活動の授業は、どのようにすればよいのか。

A ①特別活動の目標とキャリア教育で育てる4能力との関連を見出して授業を行うことで、キャリア教育の視点に立った授業を行うことができる。

②特別活動の目標と内容は、キャリア教育と密接に結び付く。勤労観・職業観の育成を考えて取り組むことが大切である。

Q3 研修シートの例のほかどのような授業ができるか。

A 例1 「児童会活動」「生徒会活動」 〈意思決定能力の育成〉

例2 「学級活動」「ホームルーム活動」 〈人間関係形成能力の育成・将来設計能力の育成・意思決定能力の育成〉



## C-1 異校種との連携の在り方について

【研修のねらい】 異校種との連携の在り方について検討する。

### 児童・生徒の活動

#### 中学生1日体験

##### ～小学校と中学校の連携の例～

#### 1 ねらい

〈小学生〉中学校の様子を知り、中学校での自分の生活を想像し、今やらなくてはならないことを考える。

〈中学生〉小学生との交流の中で中学生としての自分の立場や役割を考える。

#### 2 意義

〈小学生〉・小学校から中学校への進学を円滑にする。

- ・中学校についての情報を収集することにより、今やらなくてはならないことに気付かせる。

〈中学生〉・自分の役割を考える力を育てる。

- ・小学生への対応を通して、自己肯定感を育てる。

#### 3 活動を通して育成する能力

〈小学生〉・中学校の授業や部活動を体験する。

(将来設計能力・意思決定能力)

- ・中学生に学校生活などについてインタビューする。

(人間関係形成能力・情報活用能力)

〈中学生〉・小学生にクラブ活動内容を紹介する。

(人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力)

- ・中学校の生活について説明する。

(人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力)

#### 4 留意点

- 事前に教員同士でねらいや内容、児童・生徒の交流の仕方について話し合い、事後に評価する。

- 児童・生徒に活動のねらいを伝える。

- 事前に連携先の児童・生徒の実態を把握する。

- 活動を通して4能力の育成を図ることを目標に明確に位置付ける。

- 教員同士の見学を通して、互いの授業の内容や方法等の教育活動に対する理解を深める。

### 教員の活動

#### 教育計画の交換

##### ～小学校・中学校・高等学校の連携の例～

#### 1 ねらい

- 異校種の教育活動について互いに理解を深める。

- 発達段階に応じた系統性のある指導計画を作成する。

- 個に応じた指導を継続的に行うために、児童・生徒のキャリア発達の状況を伝える。

#### 2 内容

- 児童・生徒の進学先の学校と連絡会をもち、教育計画の交換や児童・生徒一人一人のキャリア発達の状況等を伝える。

#### 3 留意点

- 生徒が学んできたこと、進学後に必要となることを把握し、自校の役割を確認し、系統性のある教育活動を検討する。

### 異校種との連携活動を考える

#### 1 活動内容

#### 2 活動の目的

#### 3 活動を通して育成する4能力

## C-1 異校種との連携の在り方について

### 1 研修の進め方

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0—1—2—3—4—5—6—7—8—9—10—	<p>①研修のねらい等の理解</p> <p>②「児童・生徒の活動」、「教員の活動」の理解</p> <p>③異校種との具体的な連携活動についてのグループでの話し合い</p> <p>④検討内容の発表</p> <p>⑤終了</p>	<p>①研修のねらい、内容を説明し、研修シートC-1を受講者に配布する。</p> <p>②研修シートの連携活動の例に基づき、それぞれの活動のねらいや意義等を説明する。特に児童・生徒は活動を通して4能力の育成を図ること。教員は系統的なキャリア教育の実施を目的とすることを伝える。</p> <p>③研修シートの「異校種との連携活動を考える」についてグループでの話し合いを行う。                      ア 検討内容は、活動内容と目的、その活動を通して育成する能力についてである。                      イ 方法は、今までの取組を基に、2～4人の少人数で話し合い、研修シートの空欄の部分に記入する。</p> <p>④時間に応じて、数グループから発表してもらう。</p>	<p>①研修担当者は、事前に解説Q&amp;Aを読み、言葉の意味等を把握しておくとともに、グループでの話し合いに重点をおくようにする。</p> <p>②【共通理解を図る内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携活動の際は、ねらい、意義、育成する能力を明確にして計画を立てることが重要であること</li> </ul> <p>③【異校種との連携活動の例】</p> <p>〈例1 高大連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的 大学の様子を知り、大学卒業後の生き方を考えたり、今、しなくてはいけないことを考える。</li> <li>・育成する4能力 情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力</li> </ul> <p>〈例2 高校生による小学生の下校付き添いによる安全確保への支援活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的 高校生…小学生の安全確保の支援を通して自己の役割を自覚し、思いやりの心をはぐくむ。 小学生…異年齢の人との交流を通して、自分の在り方を見つめる。</li> <li>・育成する4能力 高校生…人間関係形成能力・将来設計能力・意思決定能力 小学生…人間関係形成能力・将来設計能力</li> </ul> <p>④発表は、研修の時間に合わせて行う。また、時間があれば質疑応答を行う。</p> <p>【想定質問及び回答例】</p> <p>Q1 異校種の学校と連携するための留意点は何か。                      A1 日頃から情報交換などを密にし、信頼関係を築いておく。</p>

### 2 解説Q&A

Q 1 異校種と連携した活動を行う目的は何か。

- A ○小学校・中学校・高等学校の12年間を見通したキャリア教育を行うためには、異校種での教育活動について共通理解を図ることが大切であること
- 小学校から中学校、中学校から高等学校へと円滑に移行していくためには、子ども自身が進学する学校について情報を収集し、心の準備をすることや、求められる力を知ることが必要であること
- 異年齢の児童・生徒と交流する学習は、人間関係形成能力の育成に大切であること

Q 2 高等学校と大学・専門学校との連携活動にはどのような活動があるか。

- A ○大学・専門学校のオープンキャンパスの実施
- 高校生の大学の講義の聴講
- 大学からのいわゆる「出前授業」 など

Q 3 高等学校と大学・専門学校とが連携して活動を行うことにはどのような意義があるのか。

- A ○専門性の高い学問への興味・関心を高めたり、高等学校から大学・専門学校への円滑な接続を図ったりする上で大きな効果をもたらす。
- 高校生がどのような目的意識をもって大学・専門学校に進学するのか、大学・専門学校等卒業後の進路や職業をどう描くのかについて考える上でも大きな意味をもつ。

## C-2 家庭・保護者との連携活動について

【研修のねらい】 家庭・保護者との連携活動を検討する。

### 家庭・保護者のキャリア教育における役割

#### 1 家庭・保護者の役割

- 家庭は子どもの成長・発達を支え、自立を促す最も重要な場の一つである。
- 幼少期から生活習慣を定着させたり、子どもに家庭での役割をもたせたりして、望ましい勤労観・職業観を育成する。
- 学校のできごとや将来についてなど、子どもの話をよく聞き、自己肯定感をもたせる。

#### 2 家庭における4能力の育成

- 人間関係形成能力の育成…あいさつや返事をさせる、子どものよいところを認め、伸ばすなど
- 情報活用能力の育成…仕事について話す、身近な人の働く姿を見せるなど
- 将来設計能力の育成…きまりを守らせる、家の仕事を分担して行わせる、生活習慣を定着させるなど
- 意思決定能力の育成…自分のことは自分でさせる、夢や希望をもたせるなど

### 家庭・保護者との連携活動を考える

○学校と家庭・保護者との連携活動 1	○学校と家庭・保護者との連携活動 2
1 内容	1 内容
2 目的	2 目的
3 期待される効果	3 期待される効果

## C-2 家庭・保護者との連携活動について

### 1 研修の進め方

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートC-2を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておく。
1	②家庭・保護者の役割の理解	②家庭・保護者のキャリア教育における役割を研修シートを基に説明する。	②【共通理解を図る内容】 ・家庭は子どもの成長・発達を支える重要な場であり、家庭における養育は4能力の育成につながる。
2	③学校と家庭・保護者が連携する必要性の理解	③学校と家庭・保護者が連携する必要性を解説Q&Aを基に説明する。	③児童・生徒のキャリア発達について学校・家庭が共通理解し、それぞれの立場で児童・生徒に対して適切な支援をすることが大切である。
3	④家庭との連携活動についてのグループでの話し合い	④グループでの話し合いを行うにあたり、次の内容を伝える。	④【連携活動の例】 〈例1〉保護者会で自立心の育成や仕事に関心をもたせることについて話し合う。 ・目的 児童・生徒が社会人・職業人として自立できる能力をはぐくむための家庭の役割を理解する。 ・効果 自分の子どものキャリア発達の状況を客観的にとらえることができるとともに、保護者が適切な支援を行うきっかけとなる。 〈例2〉職業体験講座等で講師として仕事について話す。 ・目的 仕事の楽しさ、厳しさ、責任、義務などを児童・生徒に伝える。 ・効果 児童・生徒が仕事に対する認識を深め、勤労に対する価値観をはぐくむ。 〈例3〉学校行事等に参加する。 ・目的 多くの児童・生徒、保護者と接する。 ・効果 保護者が子育てや自分の働き方、生き方を改めて考える。
4		ア 目的は、家庭との具体的な連携活動を検討することである。	
5		イ 検討内容 ・具体的な連携活動 ・活動の目的 ・活動によって期待される効果	
6		ウ 方法は、自校の実態を踏まえ2～4人の少人数で上記イの内容について話し合い、研修シートの空欄の部分に記入する。	
7			
8			
9	⑤検討内容の発表	⑤時間に応じて、数グループから発表してもらう。	⑤発表は、研修の時間に合わせて行う。また、時間があれば質疑応答を行う。
10	⑥終了		【想定質問及び回答例】 Q1 家庭・保護者との連携を密にするにはどうしたらよいか。 A1 日頃から情報発信、情報交換を密にし、信頼関係を構築しておく。また、社会動向等について共に学ぶ機会をつくり、キャリア教育の必要性への理解を深めさせる。

### 2 解説Q&A

Q1 学校が家庭・保護者と連携することの必要性はどのようなことか。

A 家庭の養育の在り方、働くことに対する保護者の考え方や態度は、児童・生徒のキャリア発達や勤労観や職業観の形成に大きな影響を与える。したがってキャリア発達をうながし、勤労観や職業観をはぐくむためには、家庭・保護者と共通理解を図り、連携してキャリア教育を進めることが大切である。

Q2 学校と家庭・保護者が連携する活動にはどのようなことがあるか。

A ○児童・生徒のキャリア発達の状況や学校の教育活動に関する理解を深める活動

- ・学校便りなどによる児童・生徒の様子の報告
- ・保護者会などにおける児童・生徒のキャリア発達に関する意見交換の場の設定
- ・学校公開などの開催
- ・保護者会の開催とそこでのキャリア教育の活動状況の報告

○児童・生徒一人一人への適切な支援をするための活動

- ・三者面談の実施
- ・保護者からの学校への児童・生徒の状況に関する密な連絡

○キャリア教育の必要性等に関する理解を深める活動

- ・産業構造の変化や進路をめぐる環境の変化等に関する情報提供
- ・大学のカリキュラムや就職指導の状況に関する情報提供
- ・PTA活動におけるキャリア教育の必要性や保護者の役割などに関する研究協議会の開催

○学校の教育活動に参加する活動

- ・保護者の学校行事への参加と運営の協力
- ・保護者が職業人講話の講師として仕事について話すこと
- ・保護者のボランティア活動やインターンシップなどの受け入れ先探しへの協力

## C-3 地域との連携の仕方について

【研修のねらい】 地域との連携の仕方を検討する。

### 地域との連携を生かした活動の実施に向けて

#### 〈活動内容〉

地域行事や活動への参加、職場見学、職場体験、インターンシップ、職業人講話・インタビュー、図書館や美術館・博物館での調査研究活動、福祉施設や幼稚園、保育所等でのボランティア活動等

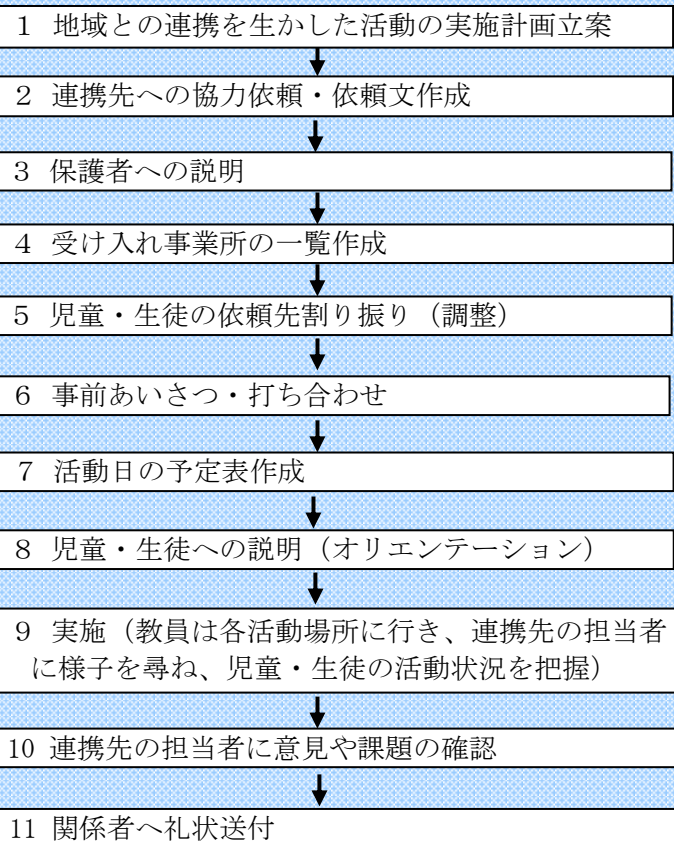
#### 〈意義〉

地域や周囲の人々、社会や産業等とのかかわりを通して望ましい勤労観・職業観を身に付ける。

#### 〈連携先の例〉

- ・地域の自治会（地域清掃等、地域の様々な取り組みへの受け入れ、協力）
- ・地域の企業や商店街、商店会（職場見学や職場体験の協力）
- ・PTA（地域行事のサポート、職場見学や職場体験の受け入れ先確保についての協力、地域の安全巡回ボランティア）
- ・同窓会（同窓会のメンバーを講師とする仕事の話、インターンシップの受け入れ等）
- ・青少年対策委員会（スポーツ大会、キャンプ、スキー等）
- ・学校運営連絡協議会（学校運営、地域行事の協力）
- ・ハローワーク（職業紹介斡旋、仕事や職業についての講話等）
- ・東京しごとセンター（〈東京都により設立〉若者の就職活動の支援等）
- ・その他関係機関（異校種の学校、公共の施設等）

#### 〈地域との連携を生かした活動の手順〉



#### 〈地域との連携を生かした活動を行う時の留意点〉

- ・児童・生徒への礼儀やマナー等の指導の徹底
- ・健康カード等から児童・生徒の健康管理
- ・連携先の安全確認
- ・危険防止や危機管理について事前の確認
- ・児童・生徒が活動中に損害を与えた場合に備えた保険制度の確認

## C-3 地域との連携の仕方について

### 1 研修の進め方

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートC-3を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておくとともに、グループでの話し合いに重点をおくようにする。
1	②地域と連携した体験活動の意義、連携先、活動の手順等の理解	②地域と連携して体験活動を行う意義、連携先、活動の手順等を研修シートに基づき説明する。	②【共通理解を図る内容】 ・地域と連携し、児童・生徒の勤労観・職業観を育成することが必要であること ・同窓会、PTA、自治会等、身近な人々が連携先となること ・連携活動の際には、準備段階から地域との連絡を密にし、実施後も地域に課題等を確認することが連携活動を充実したものにする。
2			
3	③地域と連携した体験活動の効果についてのグループでの話し合い	③グループでの話し合いを行うにあたり、次の内容を伝える。 ア 目的は、これまでに実施した地域と連携した体験活動の効果と実施上の課題について検討する。 イ 検討内容 ・活動の効果 ・連携上の課題と解決策 ウ 方法は、これまでに実施した地域と連携した体験活動の活動内容と連携先を踏まえ、その活動の効果と課題、解決策について2～4人の少人数で話し合う。	③【地域と連携した体験活動の効果と課題の例】 ○地域の商店街と連携した職場体験活動 (効果) 児童・生徒が働くことに興味をもつようになる。 (課題) 児童・生徒全員の受け入れ先の確保が難しい。 (課題に対する解決策) 近くの商店会に相談し、活動の意義・目的を説明し協力を要請する。
4			
5			
6			
7			
8			④発表は、研修の時間に合わせて行う。また、時間があれば質疑応答を行う。
9	④検討内容の発表	④時間に応じて、数グループから発表してもらう。	【想定質問及び回答例】 Q1 地域と連携するためのきっかけをどのようにつくればよいか。 A1 日頃から、学校の教育活動を公開するとともに、学校運営連絡協議会での情報交換や地域の活動への教員の参加等で、地域との信頼関係をつくる。
10	⑤終了		

### 2 解説Q&A

Q1 地域との連携によりどんなことが得られるか。

A 地域と協力して職場体験等を実施することで、児童・生徒の体験の場が広がり、働くことの意義や、役割、社会人に求められる姿勢を理解させることができる。それにより、キャリア発達が進むことが期待される。

また、児童・生徒に望ましい勤労観・職業観をはぐくみ、将来に向けて主体的な進路選択について指導や支援ができるよう学校や家庭、地域がパートナーシップを発揮して、互いにそれぞれの役割を自覚し、連携して取り組むことが重要である。

体験活動や学校行事に地域の人達も参加し、互いに意見等を出し合うことで、キャリア教育への理解が深まる。

平成19年度より都立高等学校で必修化される東京都設定教科・科目「奉仕」における奉仕体験活動もキャリア発達を促すのに有効である。

#### 児童・生徒にとって

- ・自己理解を深め、職業の実像をつかみながら、望ましい勤労観・職業観を身に付けることができる。
- ・学校の学習と職業との関係について理解を深めることができる。
- ・コミュニケーション能力の向上を図ることができる。
- ・社会で必要な知識や技術を学ぶことができる。
- ・社会的なルールやマナーを体得することができる。
- ・地域や事業所に対する理解を深め、地元への

#### 職場体験の意義

#### 地域にとって

- ・地域の人たちの児童・生徒理解の促進
- ・地域が一体となって生徒を育てようとする機運の醸成
- ・地域への理解促進

#### 事業所にとって

- ・児童・生徒に対する見方の変化
- ・時代を担う人材育成
- ・企業の社会的役割の具現化
- ・地域における企業価値の向上
- ・地域への貢献
- ・職場の活性化
- ・社員教育の一環

## D-1 自己を見つめる力を育てるための指導の在り方について

### ～活動記録を用いて～

【研修のねらい】 自己理解を深めさせるために、活動記録の考え方と具体的な使い方を知り、自己を見つめる力を育てる指導方法を理解する。

〈私の活動記録〉(例)

〇〇小学校 3年〇組 〇〇

教員の適切な支援とともに児童・生徒が自己評価する経験を重ねることで、児童・生徒は自己理解を深めることができる。

		人間関係形成能力			情報活用
		自己理解能力	他者自他の理解能力	コミュニケーション能力	情報収集・探索能力
目標		自分のよいところを見つけ	友だちのよいところをみとめ、はげましあう。	友だちと協力して、学習や活動に取り組む。	分からないことを、図かんなどで調べたり、質問し
活動					る。
活動の記録と評価	見つけよう自分のきりり友だちのきりり(学級活動)	ぼくのよいところは、元気がよいところだと思った。	グループの人のよいところをたくさん見つけて、相手に伝えることができた。	児童・生徒が言葉の意味を理解できない場合は、教員が分かりやすい言葉で説明する。	
	運動会	100m 走で最後まで走りとおすことができた。	他のチームの人にも応援がよくできた。	「二人三きやく」で、初めは上手に走れなかったが、□□さんと声をかけ合うことでうまく走ることができた。	
	スーパーマーケットで働く人(社会科)			みんなで協力して、スーパーマーケットの見学ができた。	お店の人にたくさんしつもんすることができた。
反省					

研修シートA-3「4能力の育成目標の例」を参考にして、事前に教員が記入する。

様々な活動の後に、育成目標に対してどんなことができたかを児童・生徒自身が記入する。

「キャリア教育の学年別年間指導計画」(研修シートB-3参照)に位置付けた活動の後に記入する。

目標に対して、何か取り組めたとする欄に記入する

各活動の記録を基に、1年間を振り返り、今後の目標を児童・生徒自身がまとめる。

成長したところを認めたり、自分では気付かなかったことを記入したりすることで、児童・生徒の自己理解と自己評価する力を確かなものとする。

〈先生からのアドバイス〉

## D-1 自己を見つめる力を育てるための指導の在り方について

## ～活動記録を用いて～

## 1 研修の進め方

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点		
0	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シートD-1及び手引き・解説D-2の「私の活動記録」の書式を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておく。		
1	②自己を見つめる力の育成とその必要性の理解	②自己を見つめる力を育成することの重要性とそのためには児童・生徒自身による自己の成長や課題の把握と教員の適切なアドバイスが欠かせないことを説明する。また、そのための方策の1つとして「私の活動記録」を用いることがあることを伝える。	②【自己を見つめる力の育成と教員のアドバイスの必要性の重要な内容】 〈自己を見つめる力の育成の必要性〉 ・児童・生徒が自己理解を深め、自分で目標を設定して、様々なことに取り組むようにするため。 〈教員のアドバイスの必要性〉 ・児童・生徒の活動を価値付けることで自己肯定感をもたせ、児童・生徒一人一人に応じた支援を行うため。		
2	③「私の活動記録」を用いた生徒への指導の在り方の理解	③「私の活動記録」を用いた生徒への指導の在り方を説明する。その際に、各欄の記入上の留意点を研修シートや解説Q&A、研修実施上の留意点を読み、理解しておく。 ・「私の活動記録」を用いる目的は、児童・生徒に自己を見つめる力を育て、自己理解を深める力を育てるためである。 ・「私の活動記録」の用い方は、学年別年間指導計画の各活動の前に、「目標」欄を確認させ、活動の後に「活動の記録と評価」欄に目標と比較した感想を児童・生徒自身に記入させる。また、学年末に1年間の反省を記入させる。 ・「私の活動記録」記入後は、自己の感想や教員からのアドバイスを基に、自己の成長を自覚させ、課題を考えさせ、これからの目標を立てさせる。また、進路を考えるとときの参考にさせる。 ・「私の活動記録」は、児童・生徒ごとに保管し、長期にわたる成長の記録を確認できるようにする。	③【共通理解を図る内容】 〈「私の活動記録」作成の目的〉 ・自己評価する力を育成し、自己理解を深めることを支援するため。 ・個に応じた支援を行なうため。 〈「私の活動記録」の各欄の記入上の留意点〉 ・研修シートA-3の「4能力の育成目標」を基に目標を事前に教員が記入し、児童・生徒に説明する。 ・活動の記録と評価欄は活動の後に目標と比較した感想を児童・生徒自身が記入する。 ・教員は支援となるアドバイスを必ず記入する。また、その際、自校の4能力の育成目標と比較し、キャリア発達の程度を客観的に把握した上で、児童・生徒が自己理解を深め、自己肯定感をもつようなアドバイスに努める。		
3				④質疑応答	④【想定質問及び回答例】 Q1 児童・生徒が「私の活動記録」の内容が理解できない場合はどうするのか。 A1 児童・生徒が理解できる言葉に置き換えたり、教員が説明したりする。 Q2 活動記録の取り扱いはどうするのか。 A2 活動記録は個人情報なので、施錠できる場所に保管するなど取り扱いに十分な注意が必要である。
4					
5	⑤終了	④不明な点や質問を受ける。			
6					
7					
8					
9					
10					

## 2 解説Q&amp;A

Q1 児童・生徒の自己を見つめる力を育て、自己理解を深めさせるにはどうしたらよいか。

A ○児童・生徒の自己を見つめる力を育て、自己理解を深める方法

児童・生徒が、自らの目標を知り、その目標の達成を目指して活動し、自分自身を適切に評価する。さらに、次の目標を設定することを繰り返し、積み重ねていくことで、自己評価する力が高まり、児童・生徒は自己理解を深めていくことができる。このとき、発達段階に応じた4能力の育成目標を指標として活用することで、小学校・中学校・高等学校の12年間を通した一貫した指導・援助ができる。

Q2 活動記録を作成する目的はどのようなことか。

A 活動記録は、児童・生徒自身がキャリア教育に関する様々な活動を記録することを通して、自己を見つめる力を育て、自己理解を深めるためのものである

Q3 活動記録の表の各欄を記入するにはどのようにしたらよいか。

A ①「目標」の欄

研修シートA-3「4能力の育成目標について」の「4能力の育成目標の例」の各発達段階の育成目標を参考にし、あらかじめ教員が記入する。学校独自に作成した、キャリア教育の学年ごとの目標などがある場合はそれを記入する。

②「活動の記録と評価」の欄

活動が終わったら、その活動の中で育成目標に対してどんなことができたかを、児童・生徒自身が記入する。育成目標に対して、取り組めたと思うことを該当する欄に記入する。

③「反省」の欄

各活動の記録を基に1年間を振り返って、できたことやこれからやらなくてはいけないことなどを児童・生徒自身が記入する。

④「先生からのアドバイス」の欄

活動の様子や自己評価の内容に対し、賞賛したりアドバイスしたりする。賞賛によって価値付けられたり、アドバイスにより考えを深めたりすることで、自己評価する力が身に付き、自己理解が深まる。また、児童・生徒の活動を価値付けることで自己肯定感をもたせ、児童・生徒一人一人に応じた指導・援助を行うことができる。



## D-2 活動記録の活用の仕方について

【研修のねらい】活動記録の活用場面を考え、個に応じた指導・援助のための活用方法を検討する。

### 〈「私の活動記録」の活用例〉

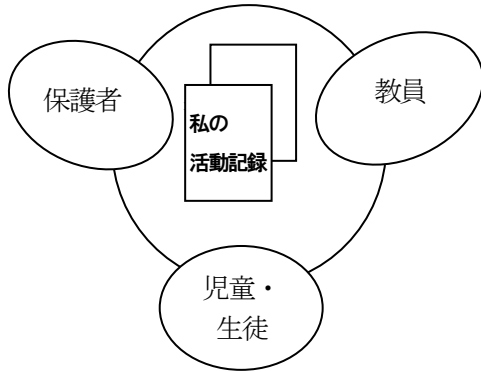
1 三者面談

(1) 目的

児童・生徒と保護者、教員が活動記録を通して4能力の発達状況を共通理解する。

(2) 意義

活動記録に基づき、4能力の発達状況を踏まえた話し合いをすることで、保護者の協力が得やすくなり、適切な指導・援助が行える。



2 進級、進学時の引き継ぎ

(1) 目的

進級、進学先の担任に、児童・生徒のキャリア発達の状況を伝える。

(2) 意義

児童・生徒の発達状況を新担任に伝えることで、継続性のある個に応じた指導・援助ができる。

3

ア

(1) 目的

児童・生徒が自己の成長を確認し、課題を見つけ、適切な目標設定をする。

(2) 意義

自分の活動の様子を振り返ることで、自己理解を深め、これからの学校生活における目標設定を適切にすることができる。

### 〈児童・生徒一人一人のキャリア発達への支援について〉

- 児童・生徒のキャリア発達の状況を適確に把握する。
- 児童・生徒自身が自己のよさや可能性に気付くように組織的・継続的に指導・援助する。
- 児童・生徒が夢や希望をもち、その実現に向けて努力するように組織的・継続的に指導・援助する。

#### 〈キャリア発達の的確な把握〉

○内容

- ・キャリア発達の状況を的確にとらえる。
- ・活動の様子や成果等から、活動計画や指導方法等の妥当性を評価する。
- ・児童・生徒自身が自らを適切に評価し、自己理解を深めることを支援する。

○方法

- ・自己評価カードの工夫(例:私の活動記録)
- ・ポートフォリオの活用
- ・キャリア・カウンセリングの活用

#### 〈キャリア・カウンセリング〉

○目的

児童・生徒一人一人の生き方や進路、教科、科目等の選択に関する悩みや迷いなどを受け止め、自己の可能性や適性についての自覚を深めさせたり、適切な情報を提供したりしながら、児童・生徒が自らの意志と責任で進路を選択できるようにする。

○意義

キャリア発達を支援するためには、個別の指導・援助を適切に行うことが大切であり、一人一人に対するきめ細かな指導・援助を行うキャリア・カウンセリングの充実が重要である。

## D-2 活動記録の活用の仕方について

### 1 研修の進め方

時間(分)	研修内容	研修担当者の活動	研修実施上の留意点
0	①研修のねらい等の理解	①研修のねらい、内容を説明し、研修シート D-2 及び参考資料として研修シート D-1 を受講者に配布する。	①研修担当者は、事前に解説 Q&A を読み、言葉の意味等を把握しておく。
1	②「私の活動記録」の活用の仕方についてのグループでの話し合い	②グループでの話し合いを行うにあたり、次の内容を伝える。	②③【空欄アに記入する内容の例】 例1 様々な活動の後に自己評価させるとき 例2 各学期末に来学期の目標を立てさせるとき 例3 学年末に来年度の目標をたてさせるとき 例4 進路を考えるととき
2		ア 検討の前に「私の活動記録」は自己を見つめる力を育て、自己理解を深めさせ、個に応じた指導・援助を適切に行うために活用することを伝える。	【まとめとして、共通理解を図る内容】 〈「私の活動記録」の活用の目的〉 ・児童・生徒に自己理解を深めさせるため ・個に応じた指導・援助を適切に行うため ・児童・生徒、保護者と教員で児童・生徒の4能力の発達状況を確認することで、適切な指導・援助を行うため
3		イ 目的は、「私の活動記録」の活用例3の活用場面を検討することである。	④【共通理解を図る内容】 ・児童・生徒の状況を的確に把握し、それに応じた指導を行う。 ・児童・生徒が自己肯定感をもち、自己理解を深めるように支援する。
4		ウ 方法は、空欄アの児童・生徒が自己理解を深めるための活用場面について、2～4人の少人数で話し合う。	【想定質問及び回答例】 Q1 進学先の学校と児童・生徒のキャリア発達の状況を引き継ぐ体制がないがどうしたらよいか。 A1 児童・生徒に活動記録の意義を理解させ、自分で保管させ必要な時に進学先の学校の教員に示させたり、活動記録を基に自分で自分自身をよく見つめたりさせる。
5			
6			
7	③検討内容の発表	③検討した指導内容や方法等について、時間に応じて、数グループから発表してもらう。	
8			
9	④児童・生徒一人一人のキャリア発達への支援の在り方の理解	④まとめとして、児童・生徒一人一人に対する支援の在り方について研修シートを基に説明する。また、時間があれば質疑応答を行う。	
10	⑤終了		

### 2 解説Q&A

Q1 「私の活動記録」は、どのような場面での活用が考えられるか。

- A 個に応じた指導・援助を行うために活用できる。
- 児童・生徒自身が自己理解を深めるために活用
    - ・日々の活動で、自分の目標を知りよりよい活動を行う。
    - ・進級、進学時に、適切な目標設定をするための参考にする。
  - 教員が児童・生徒理解を深めるために活用
    - ・日々の活動での、児童・生徒の取り組み状況やキャリア発達の程度を知る。
    - ・進級、進学時の引き継ぎ資料とし、新担任がキャリア発達の状況を理解する。
  - 家庭などと連携するときに、共通理解を図るために活用
    - ・児童・生徒と保護者、教員が面談の資料にする。
    - ・児童・生徒と保護者が、将来などについて話をするきっかけにする。
    - ・キャリア・カウンセリングの際の教員の資料にする。
    - ・進級、進学時の引き継ぎ資料とし、新担任にキャリア発達の状況を伝える。

〈私の活動記録〉		年 組 番 名前		人間関係形成能力		情報活用能力		将来設計能力		意思決定能力	
		自己理解能力	他者自他の理解能力	コミュニケーション能力	情報収集・探索能力	職業理解能力	役割把握・認識能力	計画実行能力	選択能力	課題解決能力	
活動の記録と評価	目標										
	活動										
反省											
〈先生からのアドバイス〉											

# 今年度のキャリア教育の実施状況に関するチェックシート

氏名 ( )

年度末にキャリア教育に関する研修を実践に活かすことができたかどうかを確認し、来年度への課題を検討してください。

◇1年間を振り返り、あてはまると思う番号に○を付けてください。

項		目
●キャリア教育に関する研修について		
1		キャリア教育について理解が深まった。
2		キャリア発達と発達課題について理解が深まった。
3		発達段階に応じた4能力の育成目標について理解が深まった。
4		キャリア教育では、家庭・地域・学校が連携して行うことが大切であることについて理解が深まった。
5		キャリア教育の指導計画作成の手順について理解が深まった。
●キャリア教育の実践結果について		
6		キャリア教育の視点で授業を行った。
7		異校種と連携してキャリア教育を行った。
8		家庭と連携してキャリア教育を行った。
9		地域と連携してキャリア教育を行った。
10		キャリア教育の全体計画や年間指導計画の作成に参画した。
11		活動記録を活用して自己を見付ける力を育てることができた。
12		活動記録を個への指導に活用した。
13		キャリアカウンセリング（児童・生徒が自ら進路を選択できるような個別の支援）を行った。

◇来年度への課題

--

## 参考・引用資料

- ・初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申） 平成11年12月 中央教育審議会
- ・児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書） 平成14年11月 国立教育政策研究所生徒指導センター
- ・小学校学習指導要領 平成10年12月告示 平成15年12月一部改正 文部科学省
- ・中学校学習指導要領 平成10年12月告示 平成15年12月一部改正 文部科学省
- ・高等学校学習指導要領 平成11年3月告示 平成14年5月一部改正 平成15年4月一部改正 平成15年12月一部改正 文部科学省
- ・盲学校、聾学校及び養護学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領 平成11年3月告示 平成15年12月一部改正 文部科学省
- ・子どもたちの豊かな人間関係を育てるために 東京都教育庁指導部指導企画課 平成6年3月
- ・キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省
- ・キャリア教育の推進に向けて 平成17年5月 文部科学省
- ・望ましい勤労観・職業観の育成 平成16年3月 東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課
- ・望ましい勤労観・職業観の育成Ⅱ 平成17年3月 東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課
- ・望ましい勤労観・職業観の育成Ⅲ 平成18年3月 東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課
- ・わく(Work)わく(Work) Week Tokyo 平成17年度 中学生の職場体験報告書 平成18年3月 東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課
- ・平成17年度高等学校教育指導課ブックレット VOL. 1 キャリア教育の全体計画表の作成と活用 平成17年8月 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課
- ・平成17年度キャリア教育推進地域指定事業 実践協力校中間報告書 平成18年3月 東京都教育庁指導部